

# 令和元年度 岡山学芸館高等学校

## スーパーグローバルハイスクール研究報告書 第5年次

### 目次

1. 研究開発について
  - ・研究開発の目的と目標
  - ・現状の分析からみられる課題と仮説
  
2. 研究開発完了報告書
  - ・研究開発名
  - ・研究開発概要
  - ・管理機関の取り組み・支援実績
  - ・実績の説明
  - ・研究開発の実績
  - ・実績の説明
  - ・目標の進捗状況、成果、評価
  - ・5年間の研究開発を終えて
  
3. 令和元年度 SGH 事業実施報告
  - ・SGH 運営体制
  - ・教育課程の編成
  - ・国内外研修
  - ・国内外の大学や企業・国際機関との連携
  - ・授業開発について

< 巻末資料 >

グローバル・リーダーに関する意識調査

SGH NEWS





# 岡山学芸館高等学校 スーパーグローバルスクール(SGH) 研究開発構想図



## グローバル社会に貢献できるリーダー育成のための研究開発

グローバル社会に貢献できるリーダーが必要とする資質・能力

- グローバル・マインド
- 問題解決能力
- コミュニケーション能力
- 協働能力
- 実践能力



主な連携大学

岡山大学(SGU)  
大学院 教育学研究科、環境生命科学研究所

主な連携機関

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド  
Bio Energy Cambodia Corporation Co.,Ltd

## 1. 研究開発について

## 1. 研究開発について

### 1-1. 研究開発の目的と目標

グローバル化が加速する今日、政治・経済・環境・社会・文化など様々な場面で起こる事象は相互に依存、作用し合い、既存の価値やパラダイムでは理解することが困難になり、それらが持つ変容性や不確定性は「国際化」や「多様性」という範疇では捉えることができなくなっている。そのため、「産学官によるグローバル人材育成のための戦略」（産学連携によるグローバル人材育成推進会議，2011年4月）で提言されているように、「（自身の）アイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識など」の多様な資質や能力を備えることが、グローバルな社会で活躍する人材に求められる。

岡山学芸館高等学校は建学以来、全校を挙げてボランティアや東南アジアの開発途上国において教育支援を行うなど様々な形で社会貢献に取り組んできた。グローバル・リーダーに求められているのは、新しい価値の創造だけでなく、まずは現状の社会が抱えている課題の是正が必要であると考え。その課題の一つが、世界に蔓延る貧困や不平等の是正である。特に、本校がこれまでの教育活動で取り組んできた開発途上国への貢献活動を、SGH事業を通じて、更に拡大していくという考えに至った。具体的には、「世界に貢献する」グローバル・リーダーに必要な資質・能力を以下の5つに集約し、これらの資質・能力の養成・修得を進めるものである。

そこで、本研究開発では、グローバルな人材育成のために高大連携による課題型探究学習（Project-Based Learning）である課題研究「グローバル課題研究Ⅰ～Ⅲ」を中心とした新たな学習指導方法・学習環境の開発やそれらの効果・成果を引き出すための課外活動・体験を創出し、提供することを目的とする。

#### ■「グローバル社会に貢献できるリーダー」が必要とする5つの資質・能力

- ✓ グローバル・マインド
- ✓ 問題解決能力
- ✓ 交渉型コミュニケーション能力
- ✓ 協働力
- ✓ 実践力

## ■本研究開発における目標

本研究開発における既存の学習分野や教科の枠を超えた 3 年間の課題研究での学習・研究やそれに伴う実践活動を通じて、以下の目標の達成を目指す。

### <本研究開発における目標>

- ✓ 本校が掲げるグローバル・リーダーに必要な 5 つの資質、能力を備えた生徒が増加する。
- ✓ グローバルな課題の研究に重点を置く大学へ進学する生徒が増加する。
- ✓ 高校卒業後も国内外の社会貢献活動に継続的に参加する意欲のある生徒が増加する。
- ✓ 教科の枠を越え、新たな指導方法の実施や教育環境の開発などグローバル人材の育成のためのカリキュラム開発に取り組む教員が増加する。

## ■研究開発の取り組み方法

グローバル・マインド、問題解決能力、交渉型コミュニケーション能力、協働力、実践力という「5つの資質・能力」を備えた「グローバル社会に貢献できるグローバル・リーダー」の育成を目的とする研究開発として以下に挙げる取組を行う。

### ✓ 課題研究「グローバル課題研究Ⅰ～Ⅲ」

「開発途上国における貧困の悪循環を是正するために高校生が（貢献）できること」というテーマで課題研究を行う。

### ✓ 実践活動（国内・海外フィールドワーク並びに普及活動）

課題研究の内容を踏まえ、1年次は海外視察として、2年次はカンボジアまたは国内で貢献活動を行う。3年次はワークショップ型出前授業をはじめ様々な普及活動を行う。

### ✓ グローバル人材育成のためのカリキュラム開発

課題研究のための学習指導方法・学習環境の開発並びにそれらの効果・成果を引き出すための課外活動・体験などの実践活動を通し、グローバル人材育成カリキュラムを完成させる。

## 1-2. 現状の分析からみられる課題と仮説

岡山学芸館高等学校は、「清明・正直・誠実」を教育理念に掲げると共に、国際人に必要なマナーと教養、「世界で活躍できる立派な日本人となる」ための素養を身につける学び舎として、道徳教育や価値観教育といった人間教育に力を注いできた。

国語教育や日本の歴史・文化等についての教育を通し、日本人としての確固としたアイ

デンティティーや倫理観・公德心を育むと同時に、「グローバル化の進む世界」を意識した国際理解教育並びに異文化交流にも積極的に取り組んできた。本年度の代表的な取組・活動の一つに、平成 22 年度より国際交流の分野での活動が認められ、ユネスコスクールとして認定を受けてきていることに伴い、地元岡山で開催された ESD（持続可能な開発のための教育）に関する世界会議高校生フォーラムへ生徒 45 名を派遣し、他のユネスコスクールの生徒と協働し、大会の企画・運営に貢献した。

平成 9 年よりタイやカンボジアなどの開発途上国で、学校に通えない現地の子どもたちに対する自立のための教育支援を継続的な取り組んでおり、一部対象生徒によるタイ・カンボジアでの研修旅行も毎年実施している。特に、カンボジアでは、毎年 NPO 法人ハート・オブ・ゴールドが運営するシェムリアップ州のチェイ小学校内にある「睦日本語教室」（H28 年度現在の運営は NPO 法人日本・カンボジア教育支援協会へ移行）より 1 名の留学生を奨学生として本校に 1 年間迎え入れ、日本語習得を目的とした教育支援を行ってきた。また、校内には、教育活動を通じた地球規模で起こる課題について学び、行動することを目指すユネスコ部、「地域貢献と国際交流」を目標に抱えるインターアクトクラブ、そして「国際理解」を目標に抱える S クラブの 3 つのボランティア部があり、所属する生徒はそれぞれの部が持つ活動目的に根ざした社会貢献活動に継続的に取り組んできた。

加えて、私立高等学校としては昭和 41 年に全国で初めて「英語科」（各学年定員 25 名）を設置し、初年度より北米の高校を中心に 1 ヶ年の交換留学制度を導入し、平成 4 年より 2 年次に在籍生徒全員に約 1 年間のオーストラリア留学を課すカリキュラムを実施してきた。

その結果、今年度までに約 550 名の生徒が 1 ヶ年留学を経験し、卒業後留学での学習や経験を生かし、国際関連を学べる国内大学や海外の大学など多様な進路選択をしている。また、英語科を対象に平成 26 年度 SGH アソシエイト校の指定を受けた。SGH アソシエイト校としての取り組みを行ってきた。

こうしたこれまでの教育活動を通して、英語科生徒をはじめ意欲の高い生徒を中心に国際理解や異文化交流活動、または社会貢献に対する関心や意欲、参加率は年々高まっているものの、こうした取組は一部の生徒に限られており、全校的な取組として捉えること難しい。また、上に述べた本校が掲げる「グローバル社会に貢献できるリーダー」像という観点からも、本校が抱える現状から次の課題が導かれる。

## ■現状から導かれる課題

### <現状から導かれる課題>

- ✓ グローバル・マインドの欠如  
国際的な事象に関する知識が表層的であるため、グローバルな諸問題に対する理解度が十分でない。
- ✓ 問題解決能力の欠如  
問題探知のための批判力や問題解決に必要な論理力が十分でなく、問題に対して自ら解決策を効果的に提示する事が出来ない。
- ✓ 交渉型コミュニケーション能力の欠如  
英語を介した発信型コミュニケーション能力が十分でなく、英語などの多言語を擁する場面で効果的に交渉を効果的に行うことが困難である。

- ✓ 協働力の欠如  
他者と目的を共有し、協力し目標を達成した経験が十分でなく、積極的に協働して課題に取り組むことができない。
- ✓ 実践力の欠如  
失敗を恐れ、目標達成のための計画を実行に移した経験が十分でなく、自発的・主体的な行動を積極的に起こすことができない。

## ■現状から導かれる仮説

上記の現状から導かれる課題に対して、本開発研究では、以下のような仮説と期待される効果を設定する。H28年度の取り組みをまとめたうえで、下記の仮説の検証を行う。

### ・仮説と期待される成果

①課題研究を通して、グローバルな諸問題の背景理解と分析をすることで、世界が抱える諸問題への関心を持ち、「グローバル・マインド」を醸成する事が出来る。

②グローバルな諸問題に直面し、具体的な問題解決を自ら考え、計画し、実行に移していくことで、「問題解決能力」を高める事が出来る。



③日本語や英語また ICT ツールなどを利用した「交渉型コミュニケーション能力」が身に付く。

④生徒自身が主体的に、実践を見据えた計画をすることで、「実践力」の基礎部分を得ることが出来る。

⑤単なる講義形式ではなく、グループを作り協働解決型授業を為すことにより、他者と「協働力」を高める事が出来る。

⑥教員が新たな学習指導方法、カリキュラムを開発できる機会を得る。

## 2. 研究完了報告書

(別紙様式3)

令和2年3月31日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 岡山県岡山市東区西大寺上 1-19-19  
管理機関名 学校法人 森教育学園  
代表者名 森 靖喜 印

令和元年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

平成31年4月1日（契約締結日）～令和2年3月31日

#### 2 指定校名

学校名 岡山学芸館高等学校

学校長名 森 健太郎

#### 3 研究開発名

「グローバル社会に貢献できるリーダー育成のための開発研究」

#### 4 研究開発概要

本校は独自に設定した5つの資質を身に付けることで世界に貢献するグローバルリーダーの育成を目指す。そのため「途上国の貧困の悪循環の是正に高校生ができること」をテーマとした。

1年次生は、本校作成のPPTを用いた授業を行い、今年も改訂作業を行いながら質の高い教育プログラム作成に尽力した。また、積極的な高大連携授業を推進し、高大連携授業のみならず、来年度に接続するために実施しているカンボジアFWにて2日間大学生と一緒に活動する取り組みを行った。

2年次生は1年次の学びを踏まえた本格的な課題研究を実施した。生徒個々の興味関心に従った14のテーマ（ゼミ）を設定して、Action Planの策定と実行を行った。最終的に約70の課題件研究活動が行われた事は研究テーマの個別最適化が推進されたと自負している。また、2年次のカンボジアFWには卒業生2名が帯同し、海外研修のプログラムも積極的に改訂を進めた。

3年次は今までの学びと活動を校外コンテストへの応募、選考を伴う大会への参加等を通じてその力をさらに向上させるとともに、普及活動に努めた。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
A)事務職員の雇用	→												
(A)経理事務の管理	→												
(B)ALTの雇用	→												
(C)講師の派遣依頼の推進	→												
(D)普及活動				→									

(2) 実績の説明

(A)事務職員の雇用と経理事務の管理

今年度も引き続き SGH 事務を専門とする事務職員を雇用した。雇用することで教職員の業務負担を軽減し、円滑な運営を支援した。特に経費処理、HP・SNS の更新・ブログの整備、授業実施に向けた事務作業において非常に有効であった。

(B)ALT の雇用

昨年度同様、ALT の教員を 1 名雇用し、英語の授業内容の改善に努めた。研究報告会では英語によるプレゼンテーションを行ったが、その際の指導成果が顕著にみられた。

(C) 講師の派遣依頼の推進

昨年に引き続き、管理機関としても外部講師を積極的に招聘し、本事業の推進に努めた。

(D)成果普及のための取り組み内容と成果

国際理解教育を進める市内の各小中学校において積極的に講師派遣を行い、SGH 活動の普及、及び国際理解教育の推進に努めた。また、他校の研究報告会にて生徒を相互派遣し、お互いの SGH 等における研究成果の普及に努めた。更に、地元放送局と協力して取り組んでいる SDGs の番組内にて SGH の取り組みを生徒が紹介、G20 保健大臣会合における生徒の課題研究発表（提言発表）など、国内外に積極的な普及活動を行った。今年度は例年よりも多く、校外での発表機会を頂き、生徒の活動がより社会的になった。これにより生徒の研究に対する自己肯定観や課題研究に向う姿勢が例年以上に向上した事は、普及活動を積極的に行った成果であると考えられる。以下、本年度派遣・取り組み実績一覧。

■令和元年度普及活動実績一覧（生徒関係）

- ・5/11 児島湖流域エコウェブ・・・生徒4名、2件発表
- ・5/16 世界海事大学（WMU）研究発表・・・生徒4名、1件発表
- ・5/18 岡山フェアトレードの会主催岡山フェアトレードデー！・・・生徒9名、2件発表
- ・6/16 岡山の若者は語るパネリスト・・・生徒1名、1件発表
- ・7/5,10,4,11/19 岡山市立西大寺小学校講師派遣・・・SGH 運営部長および生徒14名
- ・7/13,10/12,11/30 本校オープンスクール SGH 講座開催
- ・7/31 岡山大学 CLS プログラム学生研究発表交流会・・・生徒12名、4件発表
- ・9/26KSB 瀬戸内海放送「高校生と見つける私たちのSDGs」・・・本校特集放送
- ・10/18SDGs ネットワーク岡山主催 G20 保健大臣会合前夜祭・・・生徒4名、2件発表
- ・10/19G20 保健大臣会合にて高校生提言・・・生徒4名、1件発表
- ・10/25 岡山市立伊島小学校講師派遣・・・SGH 運営部長および生徒16名（留学生含む）
- ・1/28 岡山操山高等学校 SGH 研究発表会・・・生徒7名、3件発表
- ・2/5 岡山城東高校課題研究成果発表会・・・生徒8名、3件発表
- ・2/15 岡山学芸館 SGH 研究報告会・・・一般観覧者70名参加
- ・2/23 岡山 SDGs フォーラム（多文化共生分科会）登壇・・・生徒9名、1件発表
- ・3/5 岡山市立西大寺小学校講師派遣・・・コロナウイルスの影響により延期
- ・3/6 岡山市立旭東中学校講師派遣・・・コロナウイルスの影響により延期

■令和元年度普及活動実績一覧（教職員関係）

- ・NPO 法人日本ファンドレイジング協会社会貢献教育推進委員拝命・・・SGH 運営部長
- ・日本特別活動学会岡山大会実行委員（登壇予定）・・・SGH 運営部長および教諭1名

■令和元年度普及活動実績一覧（刊行物等）

- ・SGH ニュースの発行・・・年6回発行し、広域に配布
- ・SNS（Facebook）での情報発信・・・年43回投稿
- ・HP、ブログの整備

## 6 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
グローバル課題研究Ⅰ	→											
グローバル課題研究Ⅱ	→											
グローバル課題研究Ⅲ	→											
1年生海外フィールドワーク									→			
2年生海外フィールドワーク					→							
成果普及活動						→						
校外連携	→	→			→		→					

### (2) 実績の説明

以下、今年から新たに取り組んだ内容や顕著に改訂、活動を行ったものを中心に報告する。また、実績の具体的数値等は「7 目標の進捗状況、成果、評価」にて補完する。

#### ■研究開発の実施規模

令和元年度岡山学芸館高等学校在籍生徒数

科コース編成		1年	2年	3年	小計(人)
普通科	清秀高等部	32	27	24	83
	医進コース	15	16	17	48
	スーパーVコース	67	75	69	211
	特別進学コース	121	118	128	367
	進学コース	167	191	159	517
英語科		23	27	22	72
合計(人)		425	454	419	1298
SGH 対象数生徒		258	263	260	<b>781</b>

※SGH 対象生徒数は全校生徒の 60%

全校生徒 1298 名のうち、進学コースを除く 781 名を対象にして SGH 事業を実施した。全校生徒に占める SGH 対象生徒の割合は 60%である。また、本校は幅広い科コース編成を行っており、多種多様な生徒が在籍している。そのため、本校における SGH 事業は、様々な背景、意識の生徒に対してアプローチできるカリキュラム開発研究を行わなくてはならない。多様な生徒を対象にすることは容易ではないが、より多くの生徒が相互交流を通して学びを深められるように毎年シラバスと教材を改訂しながら、より効果的な開発研究を進めている。

#### ■運営体制について

##### ・SGH 運営部の人員について

今年度は 26 名体制（地歴公民 5 名、英語 8 名、数学 3 名、理科 5 名、国語 1 名、情報 1、保体 2 名、SGH 担当事務 1 名）で運営していた。また、1 年生の授業はオリジナル教材の運用が定着化したことにより、原則担任が授業を受け持つことを昨年度から実施している。新たな教授法（アクティブラーニングやグループワーク）について、より多くの教職員が触れ、実践する機会を創出している。そのため、管理職を除く SGH 対象科コースを担当する教員のうち 76%が SGH の授業を担当することになっており、指定初年度の 6 名体制から飛躍的に実施体制が拡充した。

#### ■授業開発について

##### ・グローバル課題研究 I（1 年生）

具体的な改善点は 2 点。1 点目は「高大連携事業の改革」である。単なる講義形式にならないように、本校の目的意識と大学側（教授および院生・学生）とのベクトルを合わせるために、高大連携授業が始まる秋に向けて夏から打ち合わせを重ねた。また、教授による講義をインプットベース、その後に行われる院生・学部生の授業をアクティブラーニング形式によるアウトプットベースによって高大連携授業を組むことで、内容の深化や定着をより促すことができたと自負している。カリキュラム編成において、実施することではなく、何をどのように学ぶかという点に注視しながら取り組めた事は本校のカリキュラムマネジメントの向上においても新たな視座を与えるものとなった。

更に今年度は 1 年生のカンボジアフィールドワークにおいて、その 2 日間を岡山大学のインターナショナルチャレンジプログラムでカンボジアフィールドワークを実施する学部生と引率教授にご協力頂き、共に日程を消化する取り組みを実現させることができた。特に每晚実施する振り返りミーティングでは学生、教授、本校教員が主導して実施し、例年になく実りあるミーティングを実現させることができた。

加えて、今年の 1 年生に対しては北陸先端科学技術大学院大学（以下、JAIST）による、多様性特別プログラムを実施することができた。本校がグローバルリーダーに必要な 5 資質を踏まえた、プログラムであり、SGH 事業をより深化させるためのプログラムとして機能することを期待している。本プログラムは希望生徒 34 名により実施し、プログラムを通じた生徒の変容は今後、大学側が作成したルーブリックを基にその変容を分析する。

このように、SGH 事業の目的・目標を大学側と密に共有することで、高大連携の新たな施策に取り組めることが実感として理解することができた。また、高校側が取り組みを一方的に享受するのではなく、相互に利益を享受する仕組みを作ることが重要であることも再認識することができた。

2 点目は、本校独自に作成している教材を今年度も改訂したことである。毎年、過年度の様子を

振り返りながら、1年次に求めるグローバルリーダーの資質「グローバルマインド」「問題解決力」を中心に内容を改訂した。授業者がどのようにファシリテーションするのかをインプットとアウトプットを明確に理解できるように取り組んだ。アクティブラーニングの実施に関しては「交渉型コミュニケーション能力」「協働力」の養成を目的に、毎年取り組むワークを変更するなど、ブラッシュアップを行っている。本年度も生徒の実情に合わせ、独自に作り上げたワークを見直して実施した。このように、毎年の改定作業が教員間で定着した事は大きな成果であると自負している。

・グローバル課題研究Ⅱ（2年生）

具体的な改善点は2点。1点目は、テーマ（以下ゼミ）数の増加による多様な生徒の興味関心に対応である。今年度は14のテーマを設定した。その中には地域のグローバル化や価値観に関するテーマも設定し、今までの課題研究よりもより多面的なテーマ設定を実現させることができた。また、テーマ設定に際しては、SGH 生徒運営委員の意見も参考にした。生徒が主体的に学ぶ環境整備がこれにより昨年よりも向上したと自負している。

2点目は、ゼミ内の課題研究数を、個別最適化を実現するために複数設定したことだ。結果として、校内に約70の課題研究が行われる環境が整備された。一方、生徒の自主的な活動が、自己を成長させるに資する学びに繋がっているかどうかが重要である。そのため、統一した取り組み指針を提示することが求められる。ポスターのテンプレートの作成、Action Report（論文）のテンプレート作成を継続して行うと共に、指導書として独自に作成した Action Plan Booklet に更なる改訂をくわえ、どの教員でも指導ができる環境づくりを推進させた。また、昨年度試用した2種類のルーブリックを本格的に運用し、生徒個々が現在の状況を目指し合わせながら、常に次に取り組むべき指針を明確に持てるような施策を行った。結果として、教職員が当初イメージしていたよりも高度な研究活動が生徒の自主性に基づき行われたことから、一定の評価と昨年度からの指導内容の向上が見られたと自負している。

■普及活動の推進について

管理機関の積極的な校外派遣に伴い、多くの生徒教職員を校外に派遣した。以下、生徒がSGH活動を広く社会に普及する活動を行った件数と参加生徒数を一覧にする。加えて、教職員派遣、インターネットによる発信に関する詳細を合わせて報告する。

令和元年度普及活動実績一覧

実施日	活動イベント名称等	参加生徒数
5/11	児島湖流域エコウェブ（研究発表）	4名
5/16	世界海事大学（WMU）研究発表	4名
5/18	岡山フェアトレードの会（研究発表）	9名
6/16	岡山の若者は語る（パネリスト）	1名
7/5	岡山市立西大寺小学校出前授業	4名
10/4	岡山市立西大寺小学校出前授業	1名
11/19	岡山市立西大寺小学校出前授業	24名
7/13	第1回オープンスクールSGH講座	10名



10/12	第2回オープンスクール SGH 講座	14名
11/30	第3回オープンスクール SGH 講座	8名
7/31	岡山大学 CLS プログラム学生研究発表交流会	12名
9/26	瀬戸内海放送「高校生と見つける私たちの SDGs」	4名
10/18	G20 保健大臣会合前夜祭（研究発表）	4名
10/19	G20 保健大臣会合本会議（高校生による提言）	4名
10/25	岡山市立伊島小学校出前授業	24名
1/28	岡山県立岡山操山高校 SGH 研究発表会	7名
2/5	岡山県立岡山城東高校課題研究発表会	8名
2/15	岡山学芸館高校 SGH 研究報告会	25名
2/23	岡山 SDGs フォーラム多文化共生分科会（研究発表）	9名
3/5	岡山市立西大寺小学校出前授業	延期
3/6	岡山市立旭東中学校出前授業	延期
合計（延べ数）		<u>176名</u>

・ SGH ニュースの発行

SGH 活動を広めるために今年は年 6 回の発行を行った。主に保護者と学外向けに配布を行った。

・ SNS の活用

指定初年度より Facebook にオフィシャルページを開設している。現在、ページへの“いいね”数が508 件(2020年3月5日現在)であり、引き続き SGH 関係のオフィシャルページでは全国最多となっている。（本校調べ）本校オフィシャルページとの相互シェアにより、最大リーチ数実績約 3200、平均リーチ数約 700であり、一度の投稿で多くの方々に活動を周知できていることから、有効な普及活動の手段として来年度も継続する。今年は年間 43 回の新規投稿を行うことができた。

■教員の外部連携

今年度は教員の外部連携も例年以上に促進された。NPO 法人日本ファンドレイジング協会が設定する社会貢献教育推進委員への就任、日本特別活動学会岡山大会実行委員の就任など、SGH 事業への取り組みが、外部組織との連携や協力を推進させた事は大きな成果である。

7 目標の進捗状況、成果、評価

指定当初の目標設定に従い、以下報告する。

■自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒について

一昨年度から設置されたボランティア委員会（教員分掌は社会貢献部）の積極的な活動により、本年度も多くの在校生が社会貢献活動に参加することができた。また、課題研究に関わる活動の一環として多くの生徒が自己研鑽活動に励むことができた。SGH 対象クラスにおいては 63%(実数 488 名)の生徒が自己研鑽活動・ボランティアに参加した。また、全校生徒で集計した場合でも54%(実数 706 名)の生徒がボランティアに参加できており、全校体制で社会貢献を実践する風土が培われている。指定時の目標値 500 名を概ね達成することができた。例年より数値が減少して

いるが、予定されていた活動がコロナウィルス等の影響により中止されたことが少なからず関係している。

#### ■自主的に留学、または海外研修に行く生徒数について

本年度、SGH 対象クラス生徒 131 名、非対象クラス 32 名が自主的に海外留学・研修に参加した。目標値 250 名を達成する事はできなかったが、募集人数の多いヨーロッパ及びオセアニア方面の 3 つの研修がコロナウィルスの影響で中止になったため、約 240 名の渡航が実施されなかったことが影響している。

しかしながら、本校主催の海外研修は 6 つの海外研修を実施（中止の研修を除く）し、昨年の 7 つの海外研修の実施と変わらない環境を整備した。加えて英語科の 1 年間留学(27 名)も例年通り実施した。

#### ■将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合について

生徒に対して行ったグローバルアンケートを元に集計した。また、3 年次の卒業段階での数値をここでは抽出する。「将来国際的職業で、世界で活躍したい」の項目に対して YES と回答した生徒は SGH 対象クラスの生徒が 32%、非対象クラスが 14%となっており、18%の差が生じている。また、「海外留学を希望する」の項目に対して YES と回答した生徒は SGH 対象クラスで 46%、非対象クラスが 16%と 30%の差が生じている。

数値の伸びしろはあるが、「今年の SGH を受講したことで世界の出来事への興味が深まった」という質問に対しては 3 年生が 73%と昨年比 10%の向上、2 年が 73%、1 年生の 69%が YES と回答している。昨年同様に海外への意識や感心が高まっていることが分かる。一方で、キャリア形成意識にその伸びしろがあることが分かる。卒業時における数値の向上は SGH 事業に対する評価に値するが、国際社会で活躍したいという意識を醸成させる取り組みが今後必要である。また、SGH 非対象クラスに対する SGH 事業の推進も今後必要な施策である。

#### ■公的機関から表彰された生徒数、またはグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数。

今年度も引き続き、積極的に校外のコンテストに応募することを推奨している。今年度の受賞者は 52 名となり、昨年度の 25 名から飛躍的に増加した。主な受賞一覧は以下の通り。愛媛大学社会共創コンテスト 2019 地域課題部門準グランプリ、甲南大学リサーチフェスタ学長賞（最優秀賞）、甲南大学リサーチフェスタ審査員特別賞、甲南大学リサーチフェスタクリエイティブテーマ賞、甲南大学リサーチフェスタアトラクティブプレゼンテーション賞、北海道大学主催海の宝コンテストマリン・カルチャー部門オーシャンドリーム賞、北海道大学主催海の宝コンテストマリン・カルチャー部門マリンラーニング賞、北海道大学主催海の宝コンテストマリン・カルチャー部門ブルーオーシャン賞、北海道大学主催海の宝コンテストマリン・カルチャー部門近畿・中国ブロック優秀賞、岡山県高等学校弁論大会優勝、第五回全国ユース環境活動発表大会中国ブロック大会協賛企業特別賞、岡山ボランティアアワード大賞（最優秀賞）、岡山ボランティアアワードキラリ！高校生賞、日本生物学オリンピック優秀賞など。

#### ■生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFR B1～B2レベルの生徒の割合について

数値は令和元年度3年生の卒業時におけるCEFR B1～B2レベル保持者を集計した。本校では英語検定、GTEC、TOEICの受験を推奨しているため、いずれかの検定でB1レベルを越えた生徒数を集計した。

その結果、SGH対象クラス3年生260名中、121名がCEFR B1以上のレベルを達成した。その割合は46.5%であり、昨年度の39%から7.5%UPと飛躍的に数値が向上した。指定時の目標数値である25%を大きく上回ることができた。また、B2達成者は18名、C1達成者は2名という結果であった。

#### ■課題研究に関する研修参加者数について

- ・課題研究に関する国内研修およびフィールドワーク参加者数

課題研究に関する国内研修およびフィールドワーク参加者数は195名(実数)であった。目標数値180名を達成することができた。この背景には、2年生の各ゼミにおいてそれぞれフィールドワークを設定したことと、学校主催による研修を積極的に開催したことが要因として挙げられる。一方、述べ数では数値がほぼ倍増することから、同じ生徒が複数回参加する傾向が見られる、実数の数値向上にはのびしろが見られることから、積極的な研修参加、フィールドワークの設定が今後も必要である。

- ・課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数

カンボジアの大学、高校、中学校、小学校を合わせて6校・団体との連携（パンニャサストラ大学、ソムダイアウ高校、大正小学校・中学校、チェイ小学校、Chong Khneas小学校、むつみ日本語学校）を達成した。

- ・課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画したのべ回数（人数×回数）

本年度も岡山大学を中心に様々な高等教育機関に課題研究に関して、講義・指導・助言を頂くことができた。特に高大連携事業に対する改革も進めたことから、海外フィールドワークでの協働や2年生のゼミ活動に密接に関わって頂く機会を創出することができた。これにより、合計64名(述べ数)の教授、院生、学部生に協力をいただくことができた。指定時の目標である42回も達成することができた。今年度の関係高等教育機関は以下の通り。岡山大学、北陸先端科学技術大学院大学、甲南大学、昭和女子大学、パンニャサストラ大学（カンボジア）

- ・グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数

SGH甲子園、甲南大学リサーチフェスタ、愛媛大学社会共創コンテスト2019、大分大学なるほどアイデアコンテスト、全国高校生MY PROJECT AWARD、日本生物学オリンピック、JICAエッセイコンテストなどを中心に234名(述べ数)の参加者を達成することができた。昨年度の121名から大幅に参加者が向上した。この背景には、生徒が課題研究の評価を自主的に外部に求めるようになったことが大きな要因である。なお、指定時の目標である180人も大幅に上回って達成することができた。

・帰国・外国人生徒の受け入れ者数

長期留学生 24 名、短期訪問は 11 団体 160 名、合計 182 名の留学生を受け入れた。昨年からの微減したもの、目標人数 130 名を越える受け入れを達成した。国別内訳は以下の通り、インド 2 回、マレーシア 2 回、オーストラリア 2 回、フィンランド 1 回、エジプト 1 回、アメリカ 1 回、台湾 1 回、インドネシア 1 回。

・先進校としての発表回数

今年は本校主催の発表のみならず、他の SGH 指定校との交流発表を行うなどして発表回数を増加させた。その結果 16 回の発表の機会を創出することができた。NPO などをはじめ、多くの社会団体より発表の機会をいただくことができた。なお、この集計に課題研究コンテストでの発表は含めていない。加えて、本校主催による発表回数は 3 回である。（2 月 SGH 研究報告会、5 月課題研究成果発表会、9 月中間発表会）

■本年度の総合的評価

SGH 指定当初の目標をほぼ達成することができた。特に、課題研究活動に対する社会的広がりが、外部から学校へ、また、学校から社会へ双方向に広がったことは、指定 5 年目として重要な成果であったと捉えている。一方、社会の中で学びを深める機会は、本校の対象者人数からすると不足している事実もある。また、数字で計ることが容易ではないが、受講生の意識変化が生じていることから、SGH 事業が一方向的なものではなく、生徒の自主性に基づいた活動へと変化している事は評価に値すると自負している。課題研究の評価をどのように行うかに関連し、ルーブリック運用をより有効にする方法は継続して模索しなければならない課題だ。

8 5 年間の研究開発を終えて

(1)教育課程の開発を終えて

■スーパーグローバルハイスクール指定後のグローバル・リーダー育成に資する教育課程における変化、工夫について

本校は、普通科 5 コース、英語科の合計 6 科コースが独自の特性に従った教育を行っており、教育課程もそれぞれに従って編成している。また、本校は、総合的な学習の時間において、学園の教育理念に基づいた独自の取り組みを行っている。そのため、学校設定教科・科目を利用した教育課程を編成した。学校設定科目にグローバルスタディーズを新設し、学校設定教科にグローバル課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを設置した。その設定に当たっては、現代社会を 1 単位減じ、グローバルスタディーズへ 1 単位充当した。

■先進的な課題研究等の実績を踏まえた、グローバル・リーダー育成に資する発展的な実践について

・海外フィールドワークについて

本校はグローバル課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテーマを「途上国の貧困の悪循環の是正に高校生が貢献できること」と設定している。そのため、カンボジアフィールドワークとミャンマー研修を課題研究に資する海外研修と位置づけて重点的に内容や取り組みの改革を行ってきた。

特にカンボジアフィールドワークについては、1 年次の渡航目的を「現地を知る」と設定し、カンボジア社会をヒアリング調査や体験を通して構造的に明らかにすることと貢献に対して生徒

個々が独自の見解を見出すことに重視して実施している。この経験を、SGH 研究報告会等を通して学園全体に周知し、課題研究に取り組む姿勢を育んでいる。

本校の特徴としては、2年次にもカンボジアフィールドワークを実施している点だ。1年次の学びと渡航経験を踏まえて、2年次に改めてカンボジアへ渡航する。2年次の目的は「実践活動に取り組む」ことであり、14のゼミがそれぞれ取り組んできた Action Plan の実践を渡航する生徒が代表して行う。このように、複数回渡航するチャンスがあること、考えたことを実践する機会がある事は、社会課題を自分ごととして捉えることができる機会を創出することに繋がっていると自負している。実際、高校生として社会課題に対する意識変化は本校が独自に実施しているグローバルアンケートの変容からも見て取れる。変化の具体的内容は「(3)生徒の変化について」にて、後述する。

#### ・国内フィールドワークについて

本校のSGH事業は、2年次に14のゼミに分かれて取り組む課題研究活動が中核をなしている。そのため、国内フィールドワークを学園が研修として実施するのではなく、各ゼミの担当者がそれぞれのテーマ性に従って、独自にフィールドワークや実践活動を設定している。この取り組みは、生徒の学びに対する個別最適化の観点から、妥当性があると自負している。一方、ゼミの垣根を越えた研修もSGH運営部が主導して実施しており、画一的な取り組みと個別最適化すべき取り組みとを融合させた研修のあり方にチャレンジできた事はSGH事業の大きな成果の一つである。

#### ・ソーシャル・リーダーシップ・キャンプの開催

平成29年度から本校とNPO法人日本ファンディング協会が主催する社会課題解決ワークショップを実施している。岡山県内で活躍するNPOや社会団体から、実際に社会課題を教示して頂き、ヒアリング調査を通してその課題を生徒が構造的に理解することを目指す。その上で、高校生ができることを社会団体に提言するプログラムである。実際に平成29年度、30年度に生徒が提言した内容がNPOとの協働事業に発展した経緯を踏まえると、高校生の学びを広げ、深化させる発展的取り組みであると自負している。今年度から、他校の参加も呼びかけ県内5校、43名の参加により開催できた事は他校連携、社会連携の観点からも有意義であった。

#### ・カンボジア合同研修会の開催

カンボジア研修を推進しているSGH指定校が協力し、指定初年度より継続的に実施してきた。高校生が都道府県の垣根を越えて共に学びあう機会を創出できた事はSGH指定を契機とした成果だ。特に今年は、SGH、グローバル型、WWL連携校など、各学校の取り組みが多様化した。協力体制を継続して第5回目を実施できた事は各学校の自走化に向けた動きからしても大変有意義であった。

#### ・社会で学ぶ場の創出（校外で学ぶ機会の創出）

一昨年度より、生徒の自主的な活動が活発化してきたことを踏まえ、校外での研究発表やシンポジウムへの登壇、NPOや行政が主催するイベントでの活動報告などを積極的に行っている。このように社会に対して自らの学びを報告できる機会を創出できた事はSGH事業を契機とした大きな変化であった。

## (2) 高大接続の状況について

SGH指定の5年間を通した高大接続の状況を以下に報告する。「課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数」は指定初年度より5倍の増加を達成することができた。

連携した高等教育機関は2大学（1年目）から4大学（5年目）と数の変化は大きくないが、連携回数が多くなったことから、連携のあり方の変容が本校の大きな成果だ。なお、大学の単位履修制度の設置は無い。

資料1 課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数経年変化

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
延べ数	12名	35名	53名	51名	64名

## ■高大連携事業の取り組みと変化

### ・高大連携授業の変化

当初は高大連携授業として一方向的な講義形式からスタートした。2年目以降、院生や学部生に協力を頂きながら、アクティブラーニングの手法に基づく講義展開を大学教員と共に実現することができた。3年目以降は、大学教員のインプットに基づき、院生や学部生によるアクティブラーニング形式の授業内容を本校教員と協力して作成して実施する形式に変更した。これにより、関係する人数が大きく増加した。また、この取り組みが少なからず院生、学部生の学びの場となることもフィードバックから明らかになったことから、相互に学びのある高大連携事業のあり方を模索し、取り組むことができた意味は大きい。

### ・大学の取り組みとの連携について

今年度は、12月のカンボジアフィールドワークの行程中、2日間を岡山大学教育学部の教授、院生、学部生と共に活動することができた。既存のプログラムをベースとし、連携の有無や目的を共有しながら協働できた意味合いは非常に大きい。また、学生と生徒同士の交流や、大学教員と高校教員の交流を含め、連携が形式に囚われない形で実現できたことは今後の自走化に向けた取り組み策定において大きな経験となった。

また、甲南大学の取り組まれている高大連携事業であるSDGsチャレンジを、その終了後も本校の課題研究として継続的に実施することで、今までにない高大連携のあり方を実現させることができた。以上2点の取り組みを中心に、一方向的に求め合う高大連携事業から、相互理解型の高大連携事業への変化は、SGH指定を契機にした成果だ。

## (3)生徒の変化について

生徒の変化について、本校が独自に実施している約60項目からなるグローバルアンケートの変容から以下にまとめる。また、本校が設定するグローバル・リーダーの5つの資質に照らし合わせることで資質養成の達成度も合わせて報告する。

なお、資料はSGH1期生（H27~29年度在籍）、2期生（H28~30年度在籍）、3期生（H30~R1年度在籍）の3年間のデータを基に述べ、各質問項目に対して「当てはまる」と回答した割合を記載している。また、比較資料はそれぞれの学年が3年時のものを掲載し、3年間の変化が他の因子と比較してどの程度育成されているかを述べる。

## 資料2 グローバル・リーダーの資質に基づいたグローバルアンケートの推移

	異なる意見を尊重できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	63	73	72	60	85
2期生	71	72	70	57	90
3期生	78	81	80	65	94

(%)

	自己意見で人を説得できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	48	44	47	34	57
2期生	41	42	44	32	64
3期生	44	48	47	32	55

(%)

	異なる価値観とコミュニケーションできる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	51	55	57	39	69
2期生	43	49	47	34	74
3期生	49	55	57	38	71

(%)

	異なる価値観と協力し新価値観を創出できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	52	53	53	38	78
2期生	45	53	53	35	74
3期生	50	57	61	42	78

(%)

	物事を客観的に判断できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	48	65	59	49	69
2期生	54	55	60	45	74
3期生	55	67	67	52	75

(%)

	国内ボランティア経験			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	56	54	63	69	88
2期生	71	72	65	68	90
3期生	70	69	72	64	100

(%)

	問題解決のために計画実行できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	45	50	48	38	42
2期生	45	41	48	31	75
3期生	41	56	51	38	61

(%)

	今後も継続して貢献活動を行いたい			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	—	80	88	97	96
2期生	93	89	86	89	91
3期生	94	89	90	84	100

(%)

	自己意見を英語で表現できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	18	25	21	8	23
2期生	15	21	25	9	40
3期生	13	19	21	8	29

(%)

	問題解決のために計画できる			比較資料	
	1年次	2年次	3年次	非対象	海外FW
1期生	51	47	59	39	62
2期生	50	48	54	37	77
3期生	51	62	59	42	78

(%)

※SGH1 期生は H27 年度入学、SGH2 期生は H28 年度入学、SGH3 期生は H29 年度入学  
岡山学芸館高校グローバルアンケート結果より本校作成

### 1. グローバル・マインドの育成について

グローバル・マインドは主に多様性への理解、他者理解、コミュニケーション力の育成を1年次の授業を通して養成している。「異なる意見を尊重できる」ことは、他者理解のための大切な要件である。これに対して卒業時にはSGH対象クラスの70~80%が「当てはまる」と回答している。また、「異なる価値観とコミュニケーションできる」ことは、異なる他者を受け入れるだけでなく、双方向の行動が取れることを意味することから、グローバル・マインドの重要な要素として設定している。この項目は3年間の成長率が6~14%と経年の成長が顕著である。このことから、グローバル・マインドの育成は順調に育成できている。

### 2. 論理的思考力について

論理的思考力は、1年次の教材を通してその基礎を養い、2年次の課題研究活動にて、実践することでその養成を行っている。「問題解決のために計画できる」については、1~3期生を通して約

60%の生徒が「当てはまる」と回答している。また、1年次からの成長も4~9%となっている。SGH非対象クラスとの比較からしても、SGH事業が論理的思考力の養成について有効であることがわかる。一方、「問題解決のために計画実行できる」項目については、全体的に10%ほど数値が下がる。計画に留まらず、実行することへのハードルが高いことがうかがい知れる。しかし、ながら、非対象クラスとの比較より、SGH受講者のスキル養成は順調に推移していると捉えている。

### 3. 交渉型コミュニケーション能力について

資料3 SGH対象クラス卒業時におけるCEFR達成者内訳

交渉型コミュニケーション能力					参考資料
	C1	B2	B1	合計	対象者数
SGH1期生	0	9	76	85	230
SGH2期生	1	13	111	125	322
SGH3期生	2	18	101	121	260

交渉型コミュニケーション能力は主に2年次の課題研究活動を通して養うことを目標としている。「自己意見で人を説得できる」項目では、SGH非対象クラスとの比較においては優位性があるものの、経年変化は思っていたよりも低い。しかし、海外FW経験者の数値は総じて高いことから、実社会で活動するか否かとの相関があることがうかがい知れる。英語力に関しては、CEFR B1以上の英語力を有する生徒が今年46.5%と例年と比較し7.5%UPと飛躍的に向上した。(SGH1期生:37%、SGH2期生:39%)また、資料3から見て取れるように、CEFR達成レベルも年々向上していることが分かる。このことから、英語の運用能力は大幅な成長を達成できており、英語を用いた課題研究発表やコミュニケーション英語改革等、この5年間の取り組みが実を結んだことが分かる。「自己意見を英語で表現できる」数値を向上させるために、生徒の英語に対する自己肯定感を向上させる取り組みが必要だと捉えている。

### 4. 協働力について

協働力については、異なる他者と協働するマインドと行動力で、その養成を計っている。先述したとおり、「異なる意見を尊重できる」「異なる価値観とコミュニケーションできる」数値においては、成長を感じることができている。これに留まらず、「異なる価値観と協力し新価値創造できる」項目において「当てはまる」と回答した生徒は、年度を追うごとに向上し、3期生は1年次と比較して11%の成長を成し得た事は協働力の育成が順調であることを意味している。

### 5. 実践力について

実践力については、考えたことを社会の中で実践する機会を生徒に求めることで、社会の構成員としての意識醸成と自らの課題研究に対する自信の醸成がなし得ると捉えている。「国内ボランティア経験」は、学園として社会貢献活動を推進していることもあり、SGH対象、非対象に関わらず今年も高い参加率を達成することができた。コロナウィルスの関係で年度末に予定していたボランティア活動や課題研究に関わるフィールドワークが中止または延期になったことから、全体的に数値は下がったことは致し方ない。また、「今後も継続して貢献活動を行いたい」生徒も総じて高い数値を示しており、本校の生徒が社会に対する高い意識を育てていることが分かる。特に SGH3期生は1年次から7割の生徒が社会活動に参加しており、1期生との比較において、生徒の変化は目を見張るものがある。



## 6. カンボジアフィールドワーク参加者の意識変容

1年次と2年次に実施しているカンボジアフィールドワークの参加者(1回20名×年2回実施×3年間=120名対象)を抽出して集計したところ、その優位性が顕著に明らかになった。全ての項目について、SGH対象クラスと比較しても10~25%高い数値を示している。このことから、カンボジアフィールドワークに参加することが、SGH事業の意図するグローバル・リーダーの資質養成に大きく関係していることが分かる。また、SGH1期生と比較し、SGH2,3期生が総じて高い数値を示していることから、SGH事業の学園における有効性が見て取れる。カンボジアフィールドワークの参加の有無に関わらず、同様の経験および意識をより多くの生徒が体験、醸成できるよう取り組むことが、より有効なプログラム作りのために必要である。

## 7. 課題研究を通じた成長の実感について

資料4 SGH卒業時における成長の実感について

質問項目	SGH1期生	SGH2期生	SGH3期生	参考
				1期生との比較
視野が広がった	70	75	90	20
新たな発見や思考を持つようになった	69	73	90	21
世界の出来事への興味が深まった	65	63	81	16
自分の考えを发表或しディスカッションできるようになった	46	54	63	17
社会問題に高校生ができることがあると思う	65	69	86	21

(%)

岡山学芸館グローバルアンケートより本校作成

資料4はSGHの授業を通じた成長の実感について調査した結果である。卒業時における数値をまとめ、本アンケートに対して「はい」と回答した割合を示している。(回答選択肢:「はい」「いいえ」「どちらでもない」)

この結果から見られる変化は、経年により生徒の社会に対する自己肯定感が高まっていることが分かる。参考として1期生と3期生との比較を掲載しているが、全ての項目に対して約20%の成長が見て取れる。「視野が広がった」「新たな考えや思考を持つようになった」の項目は、社会を多面的に俯瞰して捉える力が養われたと自己評価していることが伺える。「世界の出来事への興味が深まった」に対しても顕著な変化が見られることから、日本社会以外にも興味関心を抱く生徒が増加していることが分かる。内面変化で最も注目すべきは「社会問題に高校生ができることがある」の項目に対して21%の伸びを示し、3期生卒業時点(R1年度)で86%の生徒が「はい」と回答している。対象人数から逆算し、SGH3期生260名中224名がこのような自己肯定感を育めた事は非常に大きな成果である。

また、「自分の考えを发表或しディスカッションできるようになった」の項目に対して「はい」と回答した生徒も1期生と3期生を比較して17%の向上を示していることから、課題研究活動において、多くの生徒が発表機会を得て、その経験を肯定的に捉えていることが分かる。課題研究活動は「社会的事象を俯瞰して捉え、自分ごととして考える」事が基本的な作業になると捉えている。このような自己肯定感の向上が、全SGH対象クラスに対して広がりを見せていることについて大きな成果であると自負している。

#### (4)教師の変化について

#### 資料5 教職員アンケート結果(H29~令和元年度)

1. SGH活動は重要だと思う

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	78%	20%	0%	3%
H30	59%	38%	3%	3%
H29	70%	27%	0%	2%
H28	49%	51%	0%	0%

7. SGHの活動を通して、生徒の変容が見られた

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	38%	50%	10%	0%
H30	46%	49%	5%	0%
H29	27%	66%	7%	0%
H28	31%	51%	18%	0%

2. SGHの内容に興味がある

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	55%	38%	8%	0%
H30	43%	57%	3%	0%
H29	52%	41%	5%	2%
H28	40%	49%	11%	0%

8. SGHの活動により、外部機関とのかかわりが増えた

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	69%	31%	0%	0%
H30	65%	27%	5%	3%
H29	48%	48%	5%	0%
H28	51%	42%	7%	0%

3. 本校のSGH活動に賛成できる

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	75%	25%	0%	0%
H30	65%	32%	5%	0%
H29	64%	34%	0%	2%
H28	44%	53%	2%	0%

9. SGHの活動が自分の授業や指導方法に影響を与えた

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	26%	44%	28%	3%
H30	19%	43%	32%	5%
H29	25%	59%	16%	0%
H28	27%	58%	16%	0%

4. 昨年に比べてSGH活動の内容が向上した

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	36%	59%	5%	0%
H30	41%	59%	0%	0%
H29	61%	32%	7%	0%
H28	62%	31%	7%	0%

10. 以前に比べて英語への学習意欲が向上した

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	21%	56%	21%	3%
H30	27%	51%	19%	3%
H29	20%	55%	25%	0%
H28	11%	53%	33%	2%

5. 昨年に比べて全校実施体制が進んだ

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	31%	46%	21%	3%
H30	27%	62%	8%	5%
H29	30%	59%	9%	2%
H28	33%	49%	18%	0%

11. SGHを受講するようになり、生徒の進路選択に変化が見られそうだ

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	46%	36%	18%	0%
H30	27%	57%	16%	0%
H29	41%	43%	16%	2%
H28	18%	56%	27%	0%

6. SGHの活動は生徒の可能性を広げると思う

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	67%	31%	3%	0%
H30	78%	19%	3%	0%
H29	75%	25%	0%	0%
H28	60%	40%	0%	0%

12. SGH活動を通して、教育活動(教育内容)の変化の必要性を感じた。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	44%	51%	5%	0%
H30	41%	59%	0%	0%
H29	—	—	—	—
H28	—	—	—	—

13. SGHの指定が終了した後も、このような課題研究活動を継続すべきだ。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
R1	63%	38%	0%	0%
H30	51%	46%	3%	0%
H29	—	—	—	—
H28	—	—	—	—

教職員アンケートより本校作成

教職員の意識変化は年度末の教職員アンケートを用いて把握している。まず、SGH事業を通じた生徒への意識変化について言及する。資料5問6の「SGH活動は生徒の可能性を広げると思う」に対して「とてもそう思う」と回答した教職員は、H28年度(指定2年目)と比較しH29年度(3年目)が15%、H30年度(4年目)が18%、R1年度(5年目)が7%と向上している。これより、SGH事業が生徒の可能性を広げるものとして学園に浸透してきたことは、課題研究の全校実施体制に向けて大きな変化であると考えられる。また、問13の「SGHの指定終了後も、このような課題研究活動を継続すべきだ」との問いに対して「とてもそう思う」と回答した教員がR1年度において、前年比12%の向上を示していることから、SGH事業の必要性を最終年度に改めて重要視する

必要性を教職員が感じている結果となった。特に問1「SGH活動は重要だと思う」に対してH28年度(2年目)は「とてもそう思う」が49%と過半数を割っていた現状からR1年度は78%と29%の向上を示している。このように、新しい教育のあり方に対する認識変化はSGH事業を契機とした最も重要な変化であったと捉えている。

また、問11の「SGHを受講するようになり、生徒の進路選択に変化が見られそうだ」に対して「とてもそう思う」と回答した教職員がH28年度(2年目)と比較し28%向上していることから、SGH事業が教職員の受験指導意識にも変化を与えていることが見て取れる。総じて、教職員の意識変化が顕著に見られた事はSGH事業の大きな成果であると認識している。

#### (5)学校における他の要素の変化について(授業、保護者等)

##### ■授業の変化や改革について

##### ①コミュニケーション英語の改革

SGHの指定をきっかけに、英語で課題研究内容を発表する機会が多くなった。これに呼応するため、H29年度より、コミュニケーション英語の改革を推進した。改革の内容は、授業内にて自らの興味関心に従った社会事象を調べ、まとめ、英語で発表するものだ。相関性については不確定要素が多いが、先に述べた英語力の向上から見ても、その有効性について一定の評価に値すると捉えている。

##### ②教員独自の授業法の改革、チャレンジについて

各教職員がそれぞれ受け持つ授業内において、新たな教授法の開発を行ったり、チャレンジする機会が多く見られるようになった。以下、教職員の取り組み例(教職員アンケート調査から抜粋掲載)「ディスカッション形式の授業が増えた。動画を配信する形式で集合型の授業の排除可能性を模索している。テストなどでの問い方を変更している。(公民)」「(難易度の高い問題を)グループで考えさせる機会を設けるようにした。(数学)」「3学期よりクラッシーの振り返りアンケートを利用して毎時間答えさせるようになった。また、授業中の解説もなるべく省き、生徒たちに文法書・単語帳を使って探させた。(国語)」「トピックに関し動画などで導入、その後関連記事など読んだあとディスカッションなどで深める授業を試している(英語)」。

#### (6)課題や問題点について

研究開発・実践において課題として明らかになった点を以下にまとめる。

##### ①社会連携のあり方について

社会連携活動を実施する際、それぞれが連携事業に求める目的を、時間をかけて共有し、ベクトルを合わせながらプログラムを作成する重要性を感じた。一方向的なプログラムは、連携するお互いにとって、新たな教育手法開発には繋がりがづらい。実現できた際の教育効果は、我々の想像を越える結果を生むことも分かった。一方で、連携のあり方を、時間をかけて共有する事は物理的な障壁も生じる。教育機関が一方向的に社会団体(高等教育機関を含む)に連携を求めるだけでは教育効果は最大化できない。まずは、我々が何を目的に連携するのかを明確にするカリキュラムマネジメントの重要性を感じている。

##### ②授業評価の手法について

課題研究の授業評価については様々な見解がある。ルーブリックの活用等において、生徒の活

動状況を可視化させる事は可能となった。しかし、それを結果としてどのように評価するのかは答えを出せないままだ。第三者の評価は生徒の意識と活動を促進させる。ルーブリックを活用し、生徒の自己肯定感を向上させるための評価の手法開発は今後も継続しなくてはならない課題だ。

#### ③フィールドワーク参加生徒と一般生徒のコンピテンシーに基づく成長度合いについて

先にも述べたように、課題研究用に設定しているカンボジアフィールドワークの参加者は総じて、本校の設定するグローバル・リーダーの育成に資する成長を遂げている。一般生徒の意識と活動も年々向上しており、生徒のみならず教職員の意識やカリキュラムも向上した。一方で、一般生徒とフィールドワーク参加者の開きをどのように埋めていくかが今後の最大の課題である。

課題研究を行うにあたっての、調査をはじめとする行動経験が一般生徒との大きな違いだ。一般生徒は文献研究、国内調査はおこなうものの、現地調査やアクションプランの実践の多くはフィールドワーク参加者に委ねることとなる。この実践に資する行動機会をいかに多く設定するかが今後の大きな課題だ。

#### ④課題研究の指導方法について

1年次は5年間のオリジナル教材開発を通して、統一教材を用いた授業を展開できるようになった。そのため、授業担当者が毎年変わっても対応できる環境整備が整った。一方、2年次の本格的な課題研究の指導方法については、画一的手法の開発が難しい現状だ。統一教材は作成しているものの、この教材に従った指導法が全てではない。特に問題意識の造成、課題研究テーマの具体的決定には、生徒の思考や活動をファシリテーションできるか否かという、新たなスキルが必要だと痛感している。そのため、教材作成が生徒の成長と課題研究のレベル向上を促すことに直結するとは限らないことが分かった。本校はSGH対象生徒が全校生徒の60%であり、1学年約260名の生徒の課題研究を個別最適化させるための効果的手法はこれからも模索しなければならない大きな課題だ。

#### (7)今後の持続可能性について

研究開発を終えた取り組みの持続性については、次年度以降、対象生徒を全科コースに拡大（全生徒受講）して実施することを決定している。また、持続するだけでなく、SGHの取り組みを更に向上させるために、独自に開発研究を行う。そのため、5年間の成果と課題を校内議論およびSGH運営指導委員から頂き、次年度以降の取り組みに対して指針を決める。現在決定している指針の概要を以下にまとめる。

##### ■対象生徒の拡大について

SGH事業では、全校生徒の60%（約800名）を対象に実施した。次年度以降の取り組みに関しては、対象を全ての科コースとし、3年後には全校生徒対象のプログラムとして実施する。

##### ■海外研修の実施について

SGH事業で培った海外研修（フィールドワーク）のあり方については、継続して実施する。また、本校は様々な方面へ海外研修を行っており、各海外研修にフィールドワークの手法を取り入れ、将来的には全ての海外研修がフィールドワークの要素を担保できるように運営する計画である。加えて、次年度以降は生徒の課題研究成果を世界に発信することを目的とした、課題研究ツアーの実施を計画している。アジアツアー、ヨーロッパツアー、オセアニアツアー、北米ツアーなど、最終的には4方面への実施を目標に海外研修の改革を進める。

##### ■学びの深化プロジェクトの実施

SGHの5年間を通して、課題研究活動を「自分と社会を関連付けて捉えること」「実社会の中

で考えたことを実践してみることに」が教育効果を最大化させる一つの要因であることがわかった。先述したように、実社会で行動を起こした生徒は自己肯定感も高い傾向がある。そのため、私学なりに「社会に開かれた学校」のあり方を継続して模索する。

その中心となるのは、高校生を中心軸として縦横に広がる社会関係の構築である。この広がり生徒の課題研究を中心に捉えた学びの深化プロジェクトを実施する。具体的には、ソーシャル・リーダーシップ・キャンプで育んだ高校生同士の協働ワークショップの継続実施。県外の高校生同士で学びあうカンボジア合同研修会の継続実施、世界との協働を実現するための課題研究ツアーおよび、留学生との協働課題研究の更なる推進を実施する。このように、地域社会との協働、県外を中心とした国内の協働、世界との協働と3つのステージを用意することで、生徒が社会で自己表現できる機会を更に創造する。

#### ■社会連携活動の更なる推進と課題研究の個別最適化の推進

社会連携活動の重要性はSGH指定の5年を通して必要不可欠であることを学んだ。そのため、今までは途上国を舞台としたグローバル社会のみに焦点を当てていたが、社会の繋がりやグローバル化は地域社会との密接な関係性に基づくことを鑑み、世界と地域とのつながりを俯瞰して捉えながら課題研究を行う。この変化は、グローバルな課題研究を進めるにあたり、自然発生的に地域課題研究の要素が生まれてきたことがきっかけである。課題研究の授業こそ、個別最適化により生徒の自主性とやる気を育める大切な教育手法であると考えている。このように、生徒の自主性に対して伴奏者となれるような教育カリキュラム開発に取り組む。

#### ■海外インターシップについて

海外インターンシップについては、構想段階ではあるが、今まで多くの海外企業やNPOなどの社会団体と連携してきた経験と関係性を踏まえて実施できるように準備を進める予定である。2~3週間程度のインターンシップを模索している。

#### ■グローバル・リーダーに求める資質（コンピテンシー）の改訂

5年間の開発研究を終え、今までの経験を踏まえたコンピテンシーの再考を行った。SGH事業の振り返りから、以下5つに改定し、次年度以降の教育プログラムを改革する。①「メタ認知力の育成」に取り組み、社会に生きる私を主体的に考えられる人を育てる。②「分析力の向上」に取り組み、課題分析力、社会的妥当性、論理力を更に向上させる。③「発想力の向上」に取り組み、イノベーションへの意識醸成と自らの思案する行動策定の深化を目指す。④「行動・実践力の向上」に取り組み、社会で実践することで、課題研究に対する主体性を育む。⑤「ソーシャル・マインドの育成」に取り組み、今までよりも更に社会を俯瞰して捉え、社会や異文化を多面的に捉える力を育む。

#### ■管理機関の関わり方について

管理機関としても、課題研究の教育的効果を基にその重要性を十分に理解している。特にSGHの経験から人員配置での配慮は必要不可欠な支援だと捉えている。また、必要経費については、実施校担当者との会議を重ねながら十分な支援を目指す。

#### 【担当者】

担当課	SGH 運営部	T E L	086-942-3864
氏 名	橋ヶ谷 多功	F A X	086-943-8040
職 名	SGH 運営部長	e-mail	hashigaya@gakugeikan.ed.jp

### 3. 令和元年度 SGH 事業実施報告

特筆すべき実施報告を以下に掲載し、研究完了報告書の内容を補足する。主に開発実績を中心に掲載する。

### 3-1. SGH運営体制

令和元年度のSGH運営体制は今年度も校内分掌にてSGH運営部を設置して、SGH事業の研究開発および実施を行った。本年度は昨年の26名人員配置を行い、教科間連携への可能性も鑑み運営体制を整えた。また、SGH運営部会を担当学年ごとに定期的に実施し、授業内容の確認と進捗状況の共有を年間通して行った。

各教員の専門教科においては7科目であり、将来の目標である教科のSGH化に向けても重要な人員配置とすることができた。SGH対象クラス担任団のうち55%の教員がSGH事業に関係することで、全科コースへの取り組み強化と周知を進めている。

令和元年度 SGH運営部教職員一覧

所属	担当教科	教職員名
SGH担当教頭	数学	○三宅 徹生
入試広報教頭	地歴公民/情報	小笠原 健二
SGH運営部長	公民	○橋ヶ谷 多功
SGH運営副部長、医進コース2年担任	理科	○音田 高志
スーパーVコース3年生担任	理科	○木下 秋
英語科長、英語科1年担任	英語	松本 敦子
清秀中学校3年生担任	英語	青木 俊道
清秀高等部1年生担任	英語	野山 敦彦
英語科3年生担任	英語	瀧川 知世
非常勤講師	英語	墨江 尚子
英語科2年生担任	英語	ニコル ジェームズ
特別進学コース3年生担任	英語	金田 泰弘
スーパーVコース1年生担任	英語	高橋 優香
スーパーVコース1年生担任	地歴公民	宇根 亮佑
スーパーVコース3年生担任	地歴公民	羽多 修一
特別進学コース1年生主任・担任	地歴公民	茅原 康匡
医進コース3年生担任	地歴公民	藤田 夏子

医進コース3年生担任	理科	吉岡 希裕
特別進学コース3年生担任	理科	齋藤 直斗
医進コース長	理科	柳 雅之
特別進学コース1年生担任	保健体育	三村 力丸
特別進学コース3年生担任	保健体育	今井 大輔
スーパーVコース2年生担任	数学	上村 彩門
スーパーVコース2年生担任	数学	正躰 一将
特別進学コース1年生担任	国語	中村 優理香
SGH 事務職員	—	守屋 雅子

※○運営コアメンバー

担当教員専門教科人数一覧

国語	数学	英語	理科	地歴公民	保体	情報	事務
1名	3名	8名	3名	6名	2名	1名	1名

令和元年度 運営指導委員一覧

所属	役職	委員名
立教大学	立教大学経営学部国際経営学科 教授 立教大学グローバル教育センター長	○松本 茂
重井医学研究所	名誉所長、理学博士	沖垣 達
岡山ユネスコ協会	副会長、理事	藤木 茂彦
ベネッセホールディングス	執行役員	藤井 雅徳

※○運営指導委員長

### 3-2. 国内外研修（抜粋掲載）

国内外研修は本校主催の研修会、各課題研究に関わる国内外フィールドワーク、外部団体の学生向け研修の実施・参加を行った。本年度は積極的に研修の機会を設けたことにより、多くの生徒の参加を促すことができたと自負している。ここでは特筆すべき国内外研修を抜粋報告する。



■カンボジア合同研修会（国内）

研修名	カンボジア合同研修会
実施日	2020年1月11～12日（1泊2日）
開催場所	国立オリンピック青少年センター（国際交流棟）
参加者数	生徒35名、教職員15名、留学生6名 合計50名 （カンボジアを対象とした課題研究を行っている全国の高校より参加）
参加校	（和歌山県）和歌山信愛中学校高等学校 （東京都）啓明学園高等学校 （広島県）広島女学院中学高等学校 （東京都）昭和女子大学附属昭和高等学校・・・本年度幹事校 （岡山県）岡山学芸館高等学校・・・・・・・・・・本年度幹事校 順不同
講師	昭和女子大学 准教授 米倉雪子先生 ファシリテーター 昭和女子大学附属昭和高等学校 カンボジア留学生6名
主旨目的	<b>【主旨】</b> 「スーパーグローバルハイスクール」や「地域との協同による高等学校教育推進事業」等の活動で、カンボジアをフィールドとした課題研究を行っている高校が一堂に集い、各学校が研修を通して学んだ情報や知識を発表し、意見交換を行いながら課題の共有を行った。 <b>【目的】</b> 本研修会は、他校の生徒と経験を共有し、グローバル人材として途上国にどのような社会的貢献ができるかを考えながら、将来のグローバル人材として新たな一歩を踏み出す機会とすることを目的として行った。
内容	<b>【1日目】</b> ①研究発表（各校15分）： 各校が実践的に取り組んでいるカンボジアの課題研究をプレゼンテーションしてもらいながら、質疑応答を通して各校の取り組みの意図と成果を検証した。この研究発表会を通して、本研修の目的のひとつである情報と課題の共有を図ることができた。

②基調講演 米倉雪子先生：

講演タイトル：「人々の役に立つ国際協力とは」

米倉雪子先生が行っているカンボジアの支援活動の事例を紹介してもらいながら、カンボジアの現状と支援活動のあり方について話を聞かせて頂いた。この講演を通して、カンボジアの課題解決のために、高校生として何が出来るかを深く考えることができた。



【2日目】

①ラーニング・ワークショップ：

他校の生徒と数名のグループに分かれ、基調講演の内容をもとに、カンボジアの支援活動についての評価のあり方について考察した。また、各グループで考察した内容をプレゼンテーションしながら、カンボジアにおける支援活動について深く考えた。同世代の高校生とカンボジアについて語り合うことで、自分自身の考えや価値観を大きく変える機会となった。



②教員情報交換会：

	各学校が抱えている問題点や課題について共有しながら、意見交換会を行った。フィールドワークの実施形態や内容、課題研究の実施と運営方法などについて各校の実践活動例を伺いながら、共通し合う問題や課題についての議論を深めあった。
活動内容	<p><b>【1日目】</b> 1月11日（土）</p> <p>13：30・・・受付開始</p> <p>14：00・・・Opening Ceremony ファシリテーター 昭和女子大学附属高校 生徒</p> <p>14：30・・・全体会①（各校プレゼンテーション） 発表時間各校15分（質疑応答を含む）</p> <p>15：50・・・基調講演 昭和女子大学国際関係学部 准教授 米倉 雪子 先生</p> <p>17：00・・・諸連絡・夕食（留学生との交流・意見交換）</p> <p>18：30・・・全体会②（グループワーク）</p> <p>20：30・・・諸連絡・入浴・就寝</p> <p><b>【2日目】</b> 1月12日（日）</p> <p>7：30・・・朝食</p> <p>8：40・・・集合・諸連絡</p> <p>8：50・・・全体会③（ラーニング・ワークショップ）</p> <p>10：30・・・セッション報告</p> <p>11：30・・・閉会 Closing Ceremony</p> <p>12：00・・・昼食・懇親</p> <p>12：50・・・解散</p>

■ ソーシャルリーダーシップ・オータムキャンプ（国内）

研修名	ソーシャルリーダーシップ・キャンプ
実施日	2019年11月16～17日（2日間）
開催場所	岡山学芸館高等学校
参加者数	生徒33名、教職員5名、NPO・NGO関係者5名 合計43名 （東京都と岡山県の5つのNPOとの連携事業）
協力団体	<b>【主催】</b> ・NPO 法人日本ファンドレイジング協会

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山学芸館高等学校</li> </ul> <p><b>【協 力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 ハート・オブ・ゴールド</li> <li>・国際協力 NGO AMDA 社会開発機構 (AMDA-MINDS)</li> <li>・NPO 法人 チャリティサンタ岡山支部</li> <li>・岡山市北区真星町内会</li> </ul> <p style="text-align: right;">順不同</p>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人日本ファンドレイジング協会 大石 俊 輔 様</li> <li>・NPO 法人ハート・オブ・ゴールド 井上 恭 子 様</li> <li>・国際協力 NGO AMDA 社会開発機構 (AMDA-MINDS) 山上 正 道 ・ 渡 辺 陽 子 様</li> <li>・NPO 法人 チャリティサンタ岡山支部 河 津 泉 様</li> <li>・岡山市北区真星町内会 田 口 琢 磨 様</li> </ul> <p style="text-align: right;">順不同</p>
主旨 目的	<p>本研修は、岡山学芸館高等学校と日本ファンドレイジング協会のプログラムに基づいて、受講者各自が社会に貢献することに対して、自分なりの答えを持つことを目指して行った。また、実社会の抱える社会課題に対して、私たちができることを現実的に考え、行動を起こすイメージを作り上げることを目的としている。</p>
内容	<p><b>【1日目】</b></p> <p>(1)展開ワーク①：社会貢献マインドの育成</p> <p>NPO 法人ファンドレイジング協会の大石先生より、「なぜ社会貢献を行いたいと思うのか？」という問題を提起され、客観的な視点から社会貢献活動についての捉え直しを行った。このワークショップを通して、貢献してもらった人の気持ちになって考えたことにより、社会貢献活動の必要性や重要性を理解することができた。</p>




### (2) 展開ワーク②：学びの再確認

展開ワーク①で社会貢献のあり方について学んだ後、本校の学びを再確認しながら、行動を起こす時には、その対象となる出来事や問題点を「構造的に捉える必要がある」ことについて、本校の橋ヶ谷先生よりレクチャーしてもらった。さまざまな問題を構造的に捉えることは、社会貢献行動をする際に必要不可欠なものであることを再認識させ、この後のワークを具体的行動に落とし込んでいった。

### (3) ケーススタディ・ヒアリング：

展開ワーク①と②で社会貢献マインドについて再確認した後、岡山のNPOやNGOの各種団体から現在取り組んでいる社会貢献活動や、今後活動していきたいと考えているテーマや課題等についてレクチャーを受けた。このレクチャーをもとにして、自分の興味関心も持った団体を選択し、各団体ごとのレクチャーを受けた。選択後は、生徒がさらに詳しいヒアリングを各種団体に行い、より詳細な内容を自分達の手でつかみ取る訓練を行った。このヒアリングを通して、社会貢献活動とは何かを深く学ぶことができた。



	<p><b>【2日目】</b>  (1)グループ発表：（各グループ5分）  2日目は、昨晚各グループでヒアリングし、議論した内容の発表を行った。それぞれの表現方法は自由とし、自分達の考えをアウトプットした。高校生として、いま私たちができる社会貢献活動とは何かを、各種団体のヒアリングを通して考察し、各グループで自分たちの考えを共有しあうことで、どのような社会貢献活動が今後必要になってくるのかを再認識した。</p> 
活動内容	<p><b>【1日目】</b> 11月16日（土）  12:30～13:00・・・受付  13:00～13:50・・・アイスブレイク・展開ワーク①  13:50～14:00・・・休憩  14:00～14:30・・・展開ワーク②  14:30～15:30・・・ケースステディ  15:30～15:40・・・休憩  15:40～16:40・・・ヒアリング（各団体別に分かれて実施）  16:40～17:00・・・終了ガイダンス</p> <p><b>【2日目】</b> 11月17日（日）  9:15～ 9:45・・・受付  9:15～10:00・・・ガイダンス  10:00～12:00・・・まとめ作業  14:00～15:00・・・発表（各グループ5分）  15:00～15:30・・・審査・休憩  15:30～15:50・・・講評  15:50～16:30・・・振り返りワーク  16:30～18:00・・・交流BBQ・解散</p>



【振り返りシート（抜粋掲載）】

1. 2日間を通じて、気付いたこと、学んだこと、印象に残ったことはどんなことですか？

今日この「ソーシャルリーダーシップキャンプ」に参加して、改めて、自分にまだまだ、発想もリーダーシップも、何かのために頑張ろうという気持ちも全然足りず、このままでは厳しい、ということがわかりました。色々な意見が飛び交う中、お礼状に書いてない自分からは言えなかった。もともとと考えると、発言していき、「何かかめんどされる人」ばかりに思

2. 2日間を通じて、興味をひかれたこと、これから取り組んでみたいことは何ですか？

2日間を通じて、自分に発想力がなく、そのもととなる経験が少い人だと気付かされました。なので、もっと色々な事に参加することや、チャレンジすること、に興味をひかれました。これからは、今まで以上にボランティアなどに積極的に参加したり、町内で行われる行事に参加したりしてみたいと思いました。

3. 2日間のプログラムも寄付によって実現しました、寄付者に感謝を述べて、得たもの感謝の気持ちを伝えてみましょう。

私は今まで、ただにだけ「発想力がないんだ」と思っていました。ですが今回のキャンプで、その原因の一つを発見することができました。この発見は私の欠点を改善していく、大きな一歩につながると感じます。もし、このキャンプに参加してほければ私はこのことに気付くことができました。本当に心から感謝しています。ありがとうございました。

1. 2日間を通じて、気付いたこと、学んだこと、印象に残ったことはどんなことですか？

今まで、社会の問題に対してどう考えればいいのかを聞かれたとき、正直、何もいえないからといって、Social Leadership Campに参加して、直接、課題や現状について質問、自分たちの考えや意見と共有することで、起るべきことについて意見があったし、それに対して何かできることがあるように仲間と協力して考えたいのがとても楽しかった。

2. 2日間を通じて、興味をひかれたこと、これから取り組んでみたいことは何ですか？

今日私たちが担当した、AMONから募集していたセミナーのバカ部では、携帯電話と持っていないもの電線がつかうからとか、パソコンが壊れるとか、そういうものを、Y-ラバニルを7から21までというところの2、それをよく活用して何かできるような世界を作りたい。

3. 2日間のプログラムも寄付によって実現しました、寄付者に感謝を述べて、得たもの感謝の気持ちを伝えてみましょう。

寄付をしてくださったみなさん、本当にありがとうございました。私は今までこのプロジェクトに参加したことがなかったのですが、知恵を感じて参加を決めた。実際、世界中で起る課題に対して仲間と考える中で、様々な気づきや発見があり、とても充実した時間を過ごすことができました。これからも、世界で起る色々な問題に注目し、自分たちができることを何かしらと考える生活していきたいです。





■G20 岡山保健大臣会合（国内）

研修名	G20 岡山保健大臣会合
実施日	2019年10月19～20日（2日間）
開催場所	ホテルグランヴィア岡山
参加者数	生徒8名（本校生徒4名）、教職員名3名 合計11名 （岡山県下のSGH指定校3校がすべて参加）
提言者	<p><b>【提言者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山県立岡山操山高等学校 3名</li> <li>・岡山県立城東高等学校 1名</li> <li>・岡山学芸館高等学校 4名</li> </ul> <p style="text-align: right;">順不同</p>
主旨 目的	<p>本会合は、①UHC（ユニバーサル・ヘルス・ガバレッジ）の達成、②高齢化への対応、③AMR（薬剤耐性）を含む健康危機への対応などについて、厚生労働大臣が今後の方向性を盛り込んだ大臣宣言を採択した。そのなかで、岡山県の高校生8名は、女性を取り巻く保健医療問題について、日頃から行っている課題研究を英語で発表し、持続可能な社会の実現に向けた社会のあり方について政策提言した。</p>
提言内容	<p><b>【岡山県立城東高等学校】</b></p> <p>昨年、私たちが住む岡山県では豪雨災害があり、61人の犠牲者と約2700人の人々が避難生活を送らなければならない状態となった。そのとき、食料品の支援は十分ではあったが、生理用品等の支援は不足している状況であった。また、支給されても生理用品をもうらうことがきまづかった、周りの男性の意識が低かった、生活しづらかったなどの声も上がっていた。日本でも月経に対して無知と無理解が残っているが、この問題は物資的な支援、金銭的な支援だけでは解決できない。人々の月経に関する知識と理解が何よりも必要であることを提言した。</p> <p><b>【岡山県立岡山操山高等学校】</b></p> <p>岡山県は瀬戸内海に面している。岡山県には85の離島が点在しており、人々が生活している離島は14島、そのうち医療機関のある離島は8島、産婦人科のある離島は存在しない。離島における医師不足は課題となっており、その課題に対して日本は1970年代から遠隔医療の取り組みが始まった。その結果、2012年の時点で96.1%の離島でブロードバンドが利用可能となり、妊婦の胎児遠隔モニタリングなど、離島の医師不足環境のなかで有用な手段となっている。2019年の国連の報告書による</p>

	<p>と、妊婦死亡率の94%が十分な保健医療を受けられない貧しい国々で起こっているが、アフリカ全体における携帯電話の人口普及率は2014年時点で84.7%であり、目覚ましい勢いで通信環境が整備されている。G20参加国が中心となり、遠隔周産期医療に対する環境整備や技術支援を行うことで、保健医療を求める妊産婦に大きく貢献できるのではないかと提言した。</p> <p><b>【岡山学芸館高等学校】</b></p> <p>昨年、ミャンマーとカンボジアに渡航し、現地の保健医療の現状を見てきた。ミャンマーでは、病院に通うことができない、妊婦が病院で出産する選択をしないという現状があった。また、カンボジアでは子どもたちが保健教育を受けることができないため、自分の体のことすら勉強せず、社会に出て行く現状を知った。この現状を変えるために、私たちはカンボジアでの保健教育の推進に向け、岡山のNPOと共同して、自分の体のことを知るための事業を展開している。UHCが世界的な保健課題として知られている今日、開発途上国では保健教育において大きな課題を持っている。開発途上国の女性と子どもが保健医療の分野において危機的状況にあることを、世界中の人々が認知することから始めなければならないのではないかと提言した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事前準備	<p><b>【地元高校生による政策提言までの取り組み】</b></p> <p>①参加校教員打合せ会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2019年5月17日（金）</li> <li>・場 所：岡山市役所本庁</li> <li>・参加者：岡山県立操山高等学校、岡山県立城東高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山市政策局 G20 保健大臣会合推進室職員、岡山県県民生活部国際課職員、岡山県教育庁高校教育課職員</li> <li>・内 容：提言の策定方法やスケジュールについて協議</li> </ul>

②厚生労働省職員による特別授業

- ・実施日：2019年6月5日（水）
- ・場 所：ほっとプラザ大供
- ・講 師：厚生労働省大臣官房国際課  
G20 厚生労働関係閣僚会合等開催準備室職員 2名
- ・内 容：①自己紹介とアイスブレイク  
②レクチャー：  
「提言書作成にあたって大事な背景を知ろう」
  - 1) “G20” とは
  - 2) 保健大臣会合の経緯とテーマ
  - 3) 高校生徒の交流事業について



③G20 岡山県保健大臣会合支援推進協議会第4回総会での模擬発表

- ・実施日：2019年8月26日（月）
- ・場 所：ホテルメルパルク岡山
- ・発表者：岡山県立操山高等学校3名、岡山県立城東高等学校1名、岡山学芸館高等学校4名

日程表

【1日目】2019年10月19日（土）

- 11:00～11:30・・・保健大臣会合 開会セッション
  - 1) 地元高校生による政策提言発表
  - 2) 岡山市長によるプレゼンテーション
- 11:30～13:00・・・保健大臣会合 セッション1  
テーマ：UHC
- 13:00～14:30・・・昼食（地元小学生による歓迎）



14:30～16:00・・・保健大臣会合 セッション2  
テーマ：高齢化  
16:00～16:30・・・コーヒードリンク  
16:30～18:00・・・保健大臣会合 セッション3  
テーマ：健康危機・AMR  
19:00～21:00・・・フォトセッション・厚生労働大臣主催夕食会

**【2日目】2019年10月20日（日）**

9:00～11:00・・・保健大臣会合  
シュミレーション・エクササイズ  
11:00～11:15・・・コーヒードリンク  
11:15～11:45・・・保健大臣会合  
1)大臣宣言採択  
2)閉会のあいさつ  
12:00～13:30・・・昼食  
14:00～16:30・・・エクスカージョン  
1)BRANCH 岡山北長瀬  
2)岡山大学病院  
3)岡山後楽園  
4)岡山城



■SGH 海外フィールドワーク（カンボジア現地調査）・・・1年生

研修名	SGH 海外フィールドワーク（カンボジア現地調査）
実施日	2019年12月16～24日（8泊9日）
渡航場所	カンボジア王国・シェムリアップ州
参加者数	生徒20名、教職員2名 合計22名
主旨 目的	<p><b>【主旨】</b> この海外フィールドワークは、今年度の学びの集大成とし、今までの学習の成果として自ら問題意識を発見するために行う。現地の現状・実情を把握するため質問・ヒアリング調査を主体的に行い、Cause&amp;Result（社会的事象を構造的に見ること）を意識して、社会を捉える目を養うことを目的としている。</p> <p><b>【目的】</b> 1年生の渡航目的は現地を見て、現状を理解すること。この経験を元に来年度の課題研究につなげていくことを目的としている。そのため、多くの場所を訪問し、各場所の現状と社会課題を現地との交流を通して把握していく。また、その経験を踏まえて、各々が考えたこと、感じたことを全体シェアし、思考を更に深めるための振り返りミーティングを毎晩行った。また、今回のヒアリングシートはまとめた上で、来年度全体に共有する。</p>
内容	<p><b>【1日目】2019年12月18日（水）</b> ①ソムダイアウ高校 訪問： 姉妹校であるソムダイアウ高校に訪問した。高校生の生活実態調査や交流などを行うことができた。また、2年生ソーシャルビジネスゼミからの依頼でアンケート調査も実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

②むつみ日本語学校 訪問：

NPO 法人日本カンボジア教育支援協会が運営する「むつみ日本語学校」を訪問した。校長の桧尾睦先生から学校を運営している想いや現状をお聞きした。また、本校に留学経験のあるチョンパー先生から、教育への想いや大切にしていることなどをお聞きした。



【2日目】2019年12月19日（木）

①社会活動家の西さんの活動に帯同：

キャンディーアンコールの西氏の活動に帯同させて頂いた。西氏はシェムリアップ郊外で古着配布活動を行っているが、ただ単に配るのではなく、一人一人性別、年齢、体型を見て、すべて一つ一つ手渡しで配布する。このように配布する理由を直接伺い、貢献活動の意味や古着を配る意味を理解することができた。また、チャイルドカードという取り組みも行っておられる。この活動は貧困家庭にけがや病気を患った際、無料で病院にかかれるシステムである。この活動を始めようとしたきっかけとなった子どもへの接見、西さんの想いを伺った。



②ゴミの最終処分場 視察：

ゴミの最終処分場に訪問した。州政府環境局の方にヒアリング調査をさせて頂いた。環境局は積極的にゴミの分別の推進のために市内小学校へ  
の出前授業を行っているとのことだった。また、カンボジアの人々はほとん  
どゴミを出さず、ゴミの発生源の多くは観光客に起因する事実を聞き、私  
たちにとって衝撃的であった。今回の視察でゴミ山生活者の数が減っている  
ことがわかった。その理由は、都市部への雇用が拡大したためだ。しか  
し、これまでゴミ山生活者がいたことでゴミが分別されていたが、その人  
たちが減少するという事は、ゴミが分別されないまま埋め立てられるた  
め、新たな環境問題を引き起こす危険性があることがわかった。



③Kumae 訪問（バナナペーパー工場の見学）：

Kumae は、シェムリアップ郊外のアンルンピー村にあるゴミ山集積場で働く人々に、ゴミに依存しない生活を提供するために、バナナペーパー  
やものづくりを軸にした雇用事業や語学学校などの教育事業も展開して  
いる。この事業を興した山勢拓弥氏より話を伺い、事業を展開しよう  
と思った経緯と現在の活動状況、今後の活動計画について話を伺った。



【3日目】2019年12月20日（金）

①コムルー村保育園 訪問：

大房氏が運営している、保育園に訪問した。この保育園は貧困から抜け出すために、世帯収入を上げる必要があることに着目して設置した保育園である。保育園の先生方にヒアリング調査をさせて頂き、現在困っていることなどを伺うことができた。また、2年生の作成した支援物資も提供し、その効果測定に関するヒアリング調査も行った。



②スラム街 訪問：

スラム街で活動している社会活動家の大房氏にご協力頂き、スラム街の現状についてレクチャー頂いた。また、カンボジアの歴史や現状、スラム街の成り立ちについて講義をして頂き、「先入観」について思考を深めるきっかけを頂いた。

③NCCC（ニューチャイルドケアセンター）訪問：

NPO 法人ハート・オブ・ゴールドが運営するニューチャイルドケアセンターに訪問した。ここでは様々な理由により親元を離れ、集団生活を営みながら生活を送っている子どもや青年たちがいる。交流を行いながら、施設やこの地域の現状などを伺い、改めてシェムリアップ郊外における現状を知ることができた。また、本施設出身のスタッフで、本校元留学生のスライノッチさんからNCCCや仕事への想いを伺ったり、2年生の食育教育ゼミから依頼されたレクチャーも行わせて頂いた。





【4日目】2019年12月21日（土）

①チェイ小学校 訪問：

学校評価でシェムリアップ州第二位を獲得したことのあるチェイ小学校を訪問し、校長先生から学校の成り立ちと、高い評価を獲得した背景、取り組み内容等を説明してもらった。また、我々が学校支援を行う際に大切にしなければならないことなどをヒアリング調査させて頂いた。



②トンレサップ湖 調査

東南アジア最大級の湖であるトンレサップ湖で生活をしている水上生活者の方々にヒアリング調査し、水質の変化と漁獲量の変化、生活の様子などを伺った。また、トンレサップ湖を船で巡ることによって、湖の汚れや異臭を肌で感じ、カンボジアの水問題についての現状を知った。

**【5日目】** 2019年12月22日（日）

①Share the Wind（リエボン村）訪問

リエボン村の雇用促進や村のマネジメント事業を展開している Share the Windの内田氏から、リエボン村の状況などを伺いながら、村の雇用促進のために行っているゴミから作るキーホルダー事業や村のマネジメント事業についてレクチャーを受けた。



**【6日目】** 2019年12月23日（月）

①アンコール・トム 見学

②タプロム遺跡見学

③アンコール・ワット見学






2019年12月 岡山学芸館高等学校SGH カンボジアフィールドワーク（1年生）

日 程 表

	月 日	都市名	時 刻	交通機関	内容・宿泊地	食 事
1	12月16日 (月)	岡山駅西口 発 関西空港 着	10:20 13:55	リムジンバス	岡山駅西口、岡山IC、山陽ICからバスで関西国際空港へ *各自関西空港へ移動  <関西空港前泊>	夕 ×
2	12月17日 (火)	関西空港集合  関西空港発 ハノイ着 ハノイ発 シェムリアップ着	07:30  10:30 13:40 15:10 16:55	VN-331  VN-837  専用車	午前 関西空港集合（ブライツ出発時刻の3時間前集合）  関西空港から空路、カンボジア・シェムリアップへ向けて出発 途中、ベトナム・ハノイにて乗り継ぎ VN:ベトナム航空（エコノミークラス）利用 夕刻 シェムリアップ到着後、市内レストランへ ホテルへ  <シェムリアップ泊>	朝 昼 夕 ホテル + 昼食
3	12月18日 (水)	シェムリアップ	09:00  13:00	専用車	■ソムダイアウ高校訪問  ■むつみ日本語学校訪問	朝 昼 夕 ホテル + 昼食 ×
4	12月19日 (木)	シェムリアップ	08:00  14:00	専用車	■西さんの活動に帯同  ■ゴミの最終処分場調査 ■山麓紙/バナペーパー工場訪問	朝 昼 夕 ホテル + 昼食 ×
5	12月20日 (金)	シェムリアップ	終日	専用車	■コムレー村保育園訪問 ■スラム街調査 ■岡山大学? (内容未定) ■NCCC 訪問	朝 昼 夕 ホテル + 昼食
6	12月21日 (土)	シェムリアップ		専用車	■チェイ小学校での活動 ■トンレサップ湖 ■岡山大学? (内容未定)	朝 昼 夕 ホテル + 昼食
7	12月22日 (日)			専用車	■Share the Wind	朝 昼 夕 ホテル + 昼食
8	12月23日 (月)	シェムリアップ 発 ホーチミン 着	21:15 22:30	VN-3822	午前 ●アンコール・トム（南大門 バイヨン寺院）見学 ●タプロム遺跡 見学  午後 ●アンコール・ワット見学 夕食後空港へ シェムリアップから空路、関西空港へ向けて帰国の途へ VN:ベトナム航空（エコノミークラス）利用 途中、ホーチミンにて乗り継ぎ <機中泊>	
9	12月24日 (火)	ホーチミン 着 関西空港 発 岡山駅西口 着	00:15 07:00 08:45 12:25	VN-320  リムジンバス	関西空港到着後 岡山へ向けて移動  リムジンバスにて関西空港から岡山駅西口へ移動	朝 +

■SGH 海外フィールドワーク（カンボジア フィールドワーク）・・・2年生

研修名	SGH 海外フィールドワーク（カンボジア）
実施日	2019年8月15～23日（8泊9日）
渡航場所	カンボジア王国・シェムリアップ州
参加者数	生徒19名、教職員2名 合計21名
主旨 目的	<p><b>【主旨】</b> この海外フィールドワークは、昨年度の学びを生かしながら、今までの学習成果として自ら問題意識を発見し、考え行動するという作業の集大成とする。</p> <p><b>【目的】</b> 研究課題が設定された後の渡航となるため、自らの研究的見地からカンボジアを見直すとともに、現地と協働することを目的としている。</p>
内容	<p>このフィールドワークでは課題研究の調査と実践活動を中心に行ったため、ここでは特に掲載すべき内容のみ抜粋掲載する。</p> <p><b>【3日目】2019年8月17日</b></p> <p>①チェイ小学校 訪問：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校長・副校長より講話</li> <li>・ 学校職員へのヒアリング調査</li> <li>・ 保健事業の打合せ</li> </ul>  <p>②産業廃棄物処分場 訪問：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終処分場 見学</li> <li>・ 環境局職員へのヒアリング調査</li> </ul>  <p>③バナナ・ペーパー工房 訪問：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山勢拓弥氏の講演</li> <li>・ 工房の見学</li> <li>・ 山勢氏へのヒアリング調査</li> </ul>  <p><b>【4日目】2019年8月18日</b></p> <p>①NCCC（ニューチャイルドケアセンター） 訪問：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養保健ゼミ実践活動（レシピ作りなど）</li> <li>・ スライノッチ氏による講話</li> </ul>

②農家家庭状況実態調査：

- ・4家庭程度に生活実態調査を行う



③HERO 塚本氏の講話：

- ・カンボジアの医療問題の現状を伺う
- ・カンボジアの医療現場の見学



④現地の病院訪問：

- ・塚本氏に病院案内
- ・医師へのヒアリング調査

【5日目】2019年8月19日

①Share the Wind (リエポン村) 訪問：

- ・内田氏の講話
- ・村の現状と雇用事業の取り組みを調査



【6日目】2019年8月20日

①コムルー村 訪問：

- ・保育園の先生へのヒアリング
- ・保育園児との交流
- ・幼児教育ゼミの実践活動 (おもちゃ贈呈)
- ・栄養保健ゼミの実践活動
- ・支援物資の贈呈



②スラム街 訪問：

- ・大房氏による講話
- ・スラム住民へのヒアリング調査

③ Sio-joh 訪問：

ソーシャルビジネスゼミでお世話になっているカンボジアのアパレルブランドである「Sui-joh」の額田氏より、貢献活動とビジネスという観点から講話を頂いた。Sui-johの企業理念などを通して、社会に貢献することはボランティアであると決めつけていた生徒たちの視野が広がる素晴らしい経験となった。また、商品開発を一緒に行う計画をした。



**【7日目】2019年8月21日**

①ソムダイアウ高校 訪問：

- ・学校紹介プレゼンテーション
- ・現地高校生とディスカッション
- ・現地高校生にヒアリング調査



②チョンクニア小学校訪問：

- ・現地の小学生に環境教育をレクチャー
- ・小学生との交流

③トンレサップ湖 ゴミ拾い活動：

昨年に引き続き、トンレサップ湖の環境改善のために現地住民と協働したゴミ拾い活動を実施した。今年も約100名の方々にご参加頂き、実施することができた。今年度はアンケートを見直し、トンレサップ湖に対する意識や自然環境、水環境に関する意識調査を的確に行えるように努めた。



**【8日目】2019年8月22日**

- ・アンコール・トム 見学
- ・タプロム遺跡見学
- ・アンコール・ワット見学



2019年8月 岡山学芸館高等学校SGH カンボジア・フィールドワーク（2年生）

日 程 表

	月日	都市名	時刻	交通機関	内容・宿泊地	食 事	
1	8月15日 (木)	岡山駅西口 発 関西空港 着  関西空港	10:20 13:55		リムジンバス又は各自選択の移動手段により関西空港へ移動 関西空港にて前泊  ＜関西空港泊＞	昼 夕	× ×
2	8月16日 (金)	関西空港 集合  関西空港 発 ホーチミン 着 ホーチミン 発 シエムリアップ 着	07:00  10:30 13:55 16:20 17:30	VN-321  VN-813	朝 関西空港集合 関西空港から空路、シエムリアップへ向けて出発 VN:ベトナム航空(エコノミークラス)利用予定 途中、ホーチミン経由 シエムリアップ到着・入国手続き 市内レストランにて夕食 ★ホテルにてミーティング(19:00～)  ＜シエムリアップ泊＞	朝 昼 夕	ホテル + 食事
3	8月17日 (土)	シエムリアップ		専用車	午前 ① チェイ小学校訪問 ・ 学校長、副校長からのヒアリングと講和 ・ 保健事業打ち合わせ  午後 ② 廃棄物最終処分場訪問 ・ 環境局ヒアリング ・ 最終処分場見学 ③ パナ・ペーパー工房(山崎氏)訪問 ・ 山崎氏レクチャー ・ 質疑応答 ★振り返りミーティング  ＜シエムリアップ泊＞	朝 昼 夕	ホテル + 食事
4	8月18日 (日)	シエムリアップ		専用車	午前 ④ NOOC 訪問 ・ 栄養保健ゼミ実践活動(レシピ作り?)・・・要相談 ・ スライノッチ講話 ⑤ 農家家庭状況実地調査 ・ 4家庭程度に生活実地調査 ※2隊に分ける可能性あり。  午後 ⑥ HERO 塚本さん講和 ・ カンボジアの医療現状について ⑦ 現地病院訪問 ・ 病院案内 ・ 塚本さん、医師への質疑応答 ★振り返りミーティング  ＜シエムリアップ泊＞	朝 昼 夕	ホテル + 食事
5	8月19日 (月)	シエムリアップ		専用車	終日 ⑧ Share The Wind(内田氏) ★振り返りミーティング  ＜シエムリアップ泊＞	朝 昼 夕	ホテル + 食事
6	8月20日 (火)	シエムリアップ		専用車	午前 ⑨ コムレー村訪問 ・ 保育園の先生へのヒアリング ・ 園児との交流 ・ 幼児教育ゼミ実践活動 ・ おもちゃ贈呈、支援物資贈呈 ・ 栄養保健ゼミ実践活動  午後 ⑩ スラム街訪問 ・ 大房氏講和	朝 昼 夕	ホテル + 食事

					<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生との交流&amp;ヒアリング</li> <li>⑪ Sui-Joh 訪問</li> <li>・額田氏講和</li> <li>・店舗訪問</li> <li>★振り返りミーティング</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;シエムリアップ白&gt;</p>		
7	8月21日 (水)	シエムリアップ		専用車	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑫ ソムダイアウ高校</li> <li>・学校紹介プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul> <p>⑬ チョクニア小学校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育レクチャー</li> <li>・小学生たちと交流</li> </ul> <p>⑬ ごみ拾い活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生とともにゴミ拾い活動実施</li> </ul> <li>★振り返りミーティング</li> <p style="text-align: right;">&lt;シエムリアップ白&gt;</p>	朝 屋 夕	ホテル 以外 以外
8	8月22日 (木)	シエムリアップ  シエムリアップ 発 ホーチミン 着	21:35 22:50	VN-814	<p>終日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭ 遺跡観光</li> <li>・アンコール・トム ・バイヨン寺院 ・タブロム寺院</li> <li>・アンコール・ワット</li> </ul> <p>夜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内レストランで夕食後</li> <li>シエムリアップから空路、関西空港へ向けて帰国の途へ</li> <li>VN: ベトナム航空 (エコノミークラス) 利用予定</li> <li>途中、ホーチミンにて乗り継ぎ</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;機中白&gt;</p>	朝 屋 夕	ホテル 以外 以外
9	8月23日 (金)	ホーチミン 発 関西空港 着 関西空港 発 岡山駅西口 着	00:15 07:20 08:45 12:25	VN-320  リムジンバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西空港到着・帰国手続き後</li> <li>リムジンバスで岡山へ</li> </ul>	朝	×

### 3-3. その他の研修・コンテストについて (抜粋掲載)

本校生徒が参加した研修およびコンテスト等において特筆すべきものを一覧にて掲載する。国内フィールドワーク等はここに含まない。

実施月	研修会名
4月	北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) ワークショップ (グローバルキャリア)
4月	Diversity Studies Program 第1回
5月	おかやまフェアトレードの会
5月	岡山 JC 講演会
5月	児島湖流域エコウェブ
5月	ロータリー青少年指導者養成プログラム
5月	愛媛大学社会共創コンテスト
6月	関西模擬国連
6月	英語科1年生京都研修
6月	吉備国際大学スピーチコンテスト
6月	岡山の若者は語るシンポジウム (登壇発表)
6月	外務省 ODA 講演会



7月	大阪模擬国連
7月	Diversity Studies Program 第2回
7月	岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク協議会
7月	岡山大学 CLS プログラム学生交流研修会
7月	ブルガリア交流事業（ESD観光プロジェクト）
7月	JICA 中国 高校生国際協力体験プログラム
8月	大阪大学 Future Global Leaders Camp
8月	マリンチャレンジプログラム
8月	日本生物学オリンピック
8月	UTSummer Hinohara 2019(東京大学)
8月	小松サマースクール 2019
8月	甲南大学関西湾岸 SDGs チャレンジ
9月	ローターアクト、ロータリーとの三世代交流会研修会
9月	甲南大学 SDGs チャレンジアカデミー
9月	海と日本プロジェクト スポ GOMI 甲子園
9月	國學院大學主催全国高校生創作コンテスト
10月	G20 保健大臣岡山会合
10月	G20 保健大臣岡山会合前夜祭発表・参加（SDGs ネットワーク岡山主催）
10月	カンボジアスポーツ省交流・報告会
10月	第36回高松大学・高松短期大学近県高等学校英語弁論大会
10月	第28回岡山県高等学校弁論大会
11月	ソーシャル・リーダーシップ・キャンプ
11月	岡山市ブルガリア交流事業
11月	海の宝アカデミックコンテスト
11月	全国アマモサミット 2019
11月	インターアクト指導者講習会
11月	NPO 活動支援センター主催ボランティアアワード
11月	第5回全国ユース環境活動発表大会 中国ブロック大会
12月	SGH 全国高校生フォーラム
12月	福沢諭吉記念第57回全国高等学校弁論大会
12月	立命館宇治高校第1回模擬国連（Ritsumeikan Uji MUN）
12月	甲南大学リサーチフェスタ
1月	第30回日本数学オリンピック（JMO）
1月	カンボジア合同研修会（東京）
1月	Diversity Studies Program 第3回

2月	SDGs 探究アワード
3月	関西学院大学探究甲子園本選（中止）
3月	Smart News メディアリテラシーワークショップ（WEB開催）

### 3-4. 国内外の大学や企業・国際機関との連携

#### <令和元年度高大連携ご協力者一覧>

所属	担当分野	ご氏名等
北陸先端科学技術大学院大学 国際担当副学長	多様性研究	川西 俊吾
北陸先端科学技術大学院大学 研究員	多様性研究	元山 琴菜
岡山大学環境理工学部 准教授	開発学など	生方 数史
岡山大学教育学部 教授	社会科教育	桑原 敏典
岡山大学教育学部 講師	体育教育	原 祐一
岡山大学文学部 教授	多文化共生	中東 靖恵
甲南大学	経済学	石川 路子
昭和女子大学	開発開発学	米倉 雪子
PANNASASTRA University of CAMBODIA Siem Reap Campus		松岡 秀司
岡山大学大学院環境生命科学研究科 院生	—	—
岡山大学大学院教育学研究科 院生	—	—
岡山大学教育学部 学部生	—	—

敬称略、順不同

<令和元年度校外連携協力団体一覧>

協力団体名称	カテゴリー
外務省	政府
岡山市 (ESD 推進課、国際課、幼保運営課、教育委員会など)	行政
備前市役所	行政
西大寺公民館	行政
JICA岡山デスク	社会機関
日本ファンドレイジング協会	NPO 法人
AMD A 社会開発機構 (AMD A-M I N D S)	NPO 法人
ハート・オブ・ゴールド	NPO 法人
NPO 法人 チャリティサンタ岡山支部	NPO 法人
日本カンボジア教育支援協会	NPO 法人
New Child Care Center (N C C C)	NPO 法人
Share The Wind (カンボジア)	NPO 法人
Kumae (カンボジア)	一般社団法人
チョルモイツアーズ (スラム支援)	企業
キャンディーアンコール (農村支援・社会活動家支援)	企業
Sui-joh	企業
Happy Smile Tour (カンボジア)	企業
めぐみ保育園	教育機関
コムルー村保育園 (カンボジア)	教育機関
岡山市立伊島小学校	教育機関
岡山市立西大寺小学校	教育機関
岡山市立旭東中学校	教育機関
Chang Khneas 小学校 (カンボジア)	教育機関
チェイ小学校 (カンボジア)	教育機関
大正小学校・中学校 (カンボジア)	教育機関
ソムダイアウ高校 (カンボジア)	教育機関
光保育園	教育機関
備前市立日生小学校	教育機関
備前市立日生中学校	教育機関

岡山市北区真星町内会	地域
チェイ村副村長（カンボジア）	地域
岡山 JC	社会団体
岡山ロータリークラブ	社会団体
岡山東ロータリークラブ	社会団体
岡山北西ロータリークラブ	社会団体
岡山フェアトレードの会	社会団体

### 3-5. 授業開発について

#### ■ グローバル課題研究 I

##### ・実施概要

グローバル課題研究 I（1年生）は本校が世界で活躍できるグローバル・リーダーの持つべき資質として設定する5つの資質のうち、「グローバル・マインド」と「問題解決能力」を養うことを目的とする。その内容は多様性への理解と社会的事象を構造的かつ論理的に捉えることに注力したプログラムを作り上げている。

1年生の学びは、2年生への接続も含め、本校SGH事業の基礎となることから、オリジナル教材を用いた画一的展開で実施している。その実施に当たっては、担任が授業者としており、全校実施体制に限りなく近づいている。

令和元年度 グローバル課題研究Ⅰ（1年生）シラバス

令和元年度 「グローバル課題研究Ⅰ」 年間計画					
Stage	月	日	単元・授業		学習内容及び目的
Stage1	4	20	第1回	SGHってなに？ Global Mind①	北陸先端科学技術大学院大学 川西 俊吾 先生 元山 琴菜 先生
	5	14	第2回	SGH校内研究発表会	
	5	25	第3回	Global Mind②	グローバルマインドを定義してみよう！
	6	6	第4回	外務省出前授業	日本と途上国の関係を考えよう～日本のODA～
	6	8	第5回	Global Mind③	グローバルマインドの実践を考えよう！
Stage2	6	22	第6回	Logical Thinking①	構造的に“ものごと”を見れるようになるろう！
	7	6	第7回	Logical Thinking②	検証することの重要性を再認識しよう！
	夏期補習		第8回	Logical Thinking③	構造的に出来事を捉え、Actionするイメージをつかもう！
	夏期補習		第9回	カンボジアの歴史	カンボジアの歴史について理解を深めよう！
Stage3	9	7	第11回	Research Method①	研究とは何かを理解し、物事を明らかにする手法を学ぼう！
	9	28	第12回	Research Method②	アンケート調査の結果を集計し、考察をしてみよう！
	10	19	第13回	Research Method③	アンケート調査を基にレポートを作成しよう！①
Stage4	11	2	第14回	Research Method③	アンケート調査を基にレポートを作成しよう！②
	11	16	第15回	環境と貧困・格差① (高大連携授業)	岡山大学連携授業（環境理工）
	1	11	第16回	環境と貧困・格差② (高大連携授業)	岡山大学連携授業（環境理工）
	1	25	第17回	環境と貧困・格差③ (高大連携授業)	岡山大学連携授業（教育）
	2	8	第18回	教育と貧困・格差④ (高大連携授業)	岡山大学連携授業（教育）
報告会	2	15	第19回		2019年度SGH研究報告会
総括	2	22	第20回	まとめ	1年間のまとめと振り返り

■授業実施の特徴

①シャッフルクラスの設定

科コースに関わらず、SGH用のクラス編成を行うことにより、クラス編成から多様性を意識させている。いつもは関わりのない人との交流やディスカッションは新鮮であり、コミュニケーション能力の向上にも役立っている。

②100分授業の展開

50分ではディスカッションを行うなど、アクティブラーニング型授業の実施が困難であったため、昨年度より、隔週実施、1授業100分の授業形式に変更した。十分に議論する時間が確保できたと同時に高大連携授業も実施しやすくなった。

③高大連携授業

高大連携授業では多くの大学院生、学部生に関わって頂けるように今年度から改訂した。多数の講師に御来校頂けるようになり、画一的な全体講義授業から、より生徒たちが思考力を用いる授業内容に変更することが可能となった。

#### ④ポートフォリオの電子化

本年度からポートフォリオを完全電子化させた。各授業での振り返りはもちろん、授業資料の提供等、多くのメリットがあった。

#### ■グローバル課題研究Ⅱ

グローバル課題研究Ⅱ（２年生）では、グローバル課題研究Ⅰ（１年生）での学びを踏まえて、「途上国の貧困の悪循環を是正するために高校生が貢献できること」をテーマに本格的な課題研究を行うことを目的としている。また、その学びの過程には実践活動を必ず実施させることで、グローバル・リーダーの育成に向けてのカリキュラム開発を行っている。１年次に養った、グローバル・マインドと問題解決能力を踏まえて、２年生では交渉型コミュニケーション能力、協働力、実践力を養う。生徒たちは、自らの興味関心に従い１３のテーマから属したいゼミを選び受講する。

本校はPBL（Project Based Learning）での実施を行っており、各テーマに従った問題意識の設定、問題にアプローチするAction Planの策定、実行、再策定（３年次）を学びのストーリーとしている。その実施にあたっては、本校独自のオリジナル教材であるAction Plan Bookletを用いて、基本的内容の教授や手法の確認等を行いながら実施している。

#### 令和元年度 グローバル課題研究Ⅱゼミ一覧

	ゼミ名称	活動目的	活動内容（例）	学問領域
①	環境調査ゼミ ※理系推奨	自然環境をテーマに、実験や先行研究から得られるデータから、理系的アプローチで環境問題や課題、及びその解決策を考察する。この課程の中で ・論理的思考力 ・データから考察する力 ・研究の大雑把な流れなどを身につけることを目標とする。	自然環境については、海、気象、森林、地震など特に指定はない。研究対象やテーマに関しては、ゼミメンバーの興味関心、意見によって決定させる。 ・水質関連ではpH、溶存酸素、電気伝導率の測定は可能。 ・大腸菌・大腸菌群類の個数を測定することも可能。 ・他、実験したい場合は実現可能性も含め、検討。	環境学 農学 理学
②	環境教育ゼミ	日本における教育活動の成功事例を基に、カンボジアの現地住民（主として小学生）を対象に環境教育を施し、住民の環境意識の向上	・日本や諸外国の環境政策を学ぶ。 ・現地の小学生と協働でゴミ拾い活動を行う。 ・環境調査ゼミと連動	環境学 教育学

		を図る。		
③	国際医療・看護ゼミ	SGDs の 3「すべての人に健康と福祉を」に焦点を当てる。途上国における医療向上、健康増進のために、高校生ができることを考え、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途上国医療の現状を把握し、日本との比較を行う。</li> <li>・国際医療支援の在り方を模索する。</li> <li>・現地の小児科病院でアクションを実践し、アンケート等で効果検証を行う。</li> </ul>	看護学 予防医学 公衆衛生学
④	循環型社会形成ゼミ (政策系)	国内で起きた公害問題を調査し、日本がどのような歴史的経緯をたどりながら循環型社会を形成するにいたったのかを考察する。また、その調査成果をカンボジア環境局に報告し、これからのカンボジアのゴミ政策のあり方を提案するとともに、カンボジアの大学や学校に出前授業し、循環型社会形成のあり方を伝える活動も行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県豊島の調査活動</li> <li>・香川県庁環境局への聞き取り調査</li> <li>・リサイクル企業の聞き取り調査</li> <li>・カンボジアでの出前授業</li> <li>・カンボジア環境局への政策提言</li> </ul>	公共政策学 環境政策学
⑤	観光政策提言ゼミ	アンコールワット遺跡群を中心に急成長するカンボジアの観光業。そんな急成長を遂げる反面、経済的・社会的な側面から課題を見つけ出し、高校生目線での問題解決に向けた調査・取り組みを行う。また、日本の観光政策を事例研究し、カンボジアの社会課題を観光から解決する方法を考え提言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンコールワット遺跡群を中心に観光による経済効果が集中しており、そこで生まれる格差の解決策を提言する。</li> <li>・多くの観光客が押し寄せることによって発生している社会的な課題を明らかにし、その解決を提言する。</li> <li>・カンボジアの社会課題を明らかにし、その課題を、観光を通して解決する手法を考える。</li> </ul>	観光学 経済学 社会学 地域学 公共政策学 まちづくり 地域活性化

⑥	スポーツ支援ゼミ	カンボジアの学校スポーツの抱える問題を明らかにし、その対策案を現地の学校へ提案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の学校スポーツ事情を調査する。</li> <li>・学校スポーツで生じている問題を解決する。</li> <li>・解決案は現地学校、スポーツ省へ提言する</li> </ul>	スポーツ学 スポーツ社会学
⑦	国際理解教育ゼミ	出前授業を通して、日本の小中学校における国際理解教育の在り方を提案する。貧困や飢餓などの国際問題を理解するだけでなく、子どもたちが問題解決のためのアクションを起こせるように促す授業プランを作成し、小中学校の教師にもそれを活用してもらい、日本の子どもたちの国際問題に対する理解度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や世界の小中学校における国際理解教育の現状や各国の教育方針などを調べる。</li> <li>・子どもたちが国際問題を理解し、その解決のために行動を起こすことができる授業プランを作成する。</li> <li>・岡山市立小学校などにおいて実際に出前授業を行い、よりよい授業プランの開発につなげる。</li> </ul>	国際開発学 開発教育学 教育学 教育方法学
⑧	ソーシャルビジネスゼミ	カンボジアにあるアパレル日系企業とタイアップし、社会貢献に関するビジネスプロジェクトを展開する。主にカンボジアの縫製業に着目し、問題意識の設定に対する解決策を交際貿易の観点から現地と協働して行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアの社会問題について洗い出し、カンボジアの産業構造について研究する。</li> <li>・カンボジアの縫製業の歴史や特徴を研究する。</li> <li>・カンボジアの高校生（若者）の希望職業や就業を鑑み、高校生の意識変化を調査する。</li> <li>・企業とタイアップした商品のプロモーションを考える。</li> </ul>	国際経済学 商学 社会学 マーケティング論
⑨	栄養・保健ゼミ	保健・栄養教育に取り組み始めたカンボジアにおいて、食問題、栄養問題について多角的な視点から課題を発見し、解決策を提案、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展途上国の栄養改善政策を調査する。</li> <li>・現地小学校と協力して子どもたちの栄養状態を調査する。</li> <li>・課題解決策を実際に現地小学校で実施する。</li> </ul>	教育学 栄養学 衛生学 福祉学 保健学
⑩	カンボジア教育支援ゼミ	発展途上国の幼児教育において、遊びや玩具の支援を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや玩具の効果を学ぶ。</li> <li>・フィールドワークや先行研究</li> </ul>	教育学 (幼児・



		通して道徳観・規範意識を育み、貢献する。また、保育士の遊びや玩具に対する意識を改革する。	を通して、実際の幼児教育で遊びが果たす役割を知る。 ・現地への的確な支援は何かについて考えて実践する。	初等) 比較教育学 教育社会学
⑪	女性と社会ゼミ	・カンボジア社会における女性の生き方、役割について学び、現地調査および分析することを目的とする。	・カンボジア政府の女性省の役割と目的について調べる。 ・カンボジア社会における女性の役割(社会構造)を調査する。 ・カンボジア人女性の自己実現意識(夢や目標)などを調査し分析する。	社会学 コミュニティ論 家族論 開発学
⑫	価値観分析ゼミ	日本とカンボジアを中心にさまざまな国・文化圏の価値観を比較して、より相手目線の支援のあり方を探求する。自利利他円満を満たす「理想的な支援」策定のための根拠を見つけることが目標。	・世界幸福度ランキング、物質的な豊かさと幸せ、人生観、キャリア観など、私たちの「当たり前」という名の「偏見」を取り払うべく、様々なデータを集め、分析を試みる。	社会学 経済学 哲学
⑬	多文化共生ゼミ	現在日本では海外からの移住してきた労働者やその家族が多く存在する。その人たちが抱える問題をアンケートなどで探り、問題解決のための考察を行い、実践、評価を行う。	・海外労働者が多い企業や夜間学校へ赴き、日本での生活の問題点を探る。 ・改善を行う活動を行い、定期的にアンケートを行うことで状況の変化などを確認し、アクションの評価を行う。	国際開発学 人文社会学 教育学 コミュニティ論 地域学 まちづくり論
⑭	海洋研究	本ゼミでは干潟での生物多様性を向上させる方法を考える。また、この研究の中で「里海」の概念を学ぶ。	大規模な攪乱が起こった天然干潟「米子湾」の生物多様性について研究を行う。さらに人工干潟「まほろばの里」との比較も行いながら攪乱の影響についての考察を行う。	環境学 生物学 農学 化学

2019年度 「グローバル課題研究Ⅱ」 年間計画

Stage	月	日	単元・授業		学習内容及び目的
導入	4	16	1回	グローバル課題研究Ⅱについて	年間計画、Stage1の目標、テーマ、目的など 意識調査アンケートの説明、ゼミ選択
		23	2回	ゼミキックオフ①	研究活動とは何か理解しよう
特別授業	5	7	3回	岡山JC講演会	地元企業のSDGsアクション
研究報告会		14	4回	SGH校内研究報告会	3年生による課題研究発表を聞く。
Stage1	6	28	5回	ゼミキックオフ②	研究分野を取り巻く現状をリサーチし、先行研究を行う。先行研究を踏まえてActionPlanの作成を行う。今まで培った素地をもとに、国内と海外フィールドワークに分け実践活動を計画する。 岡山大学やその他大学、大学院、NPO、企業等に協力を仰ぎ、Action Planの策定を行う。確かな問題意識の造成と現実的なActionPlanの策定がなされることを目的とする。また自ら作成したActionPlanを批判的思考で一度見直し、現地のためになるものであるかを再検証することを目的とする。また、実際のActionに向けた準備を行い、準備ができたグループより順次アクションを実行していく。
		6	11	6回	
	7	25	7回	問題意識の設定②	
	7	4			
		9	8回	問題意識の設定③	
	16	9回	問題意識の設定④		
	夏期補習	10回	問題意識の設定⑤		
		11回	問題意識の設定⑥		
		12回	問題意識の設定⑦		
		13回	問題意識の設定⑧		
Stage2	8	27	14回	Action Planの策定と実行①	Action Planの実行に向けて、作業を開始する。設定した問題意識の正当性を確認した上で、その解決策を考える。Action Planは「途上国の貧困の悪循環の是正に対して高校生ができること」として設定する。 研究活動とするために、各Action Planの効果検証をはかるためにアンケート調査等を各々実施し、問題解決のために活動を行う。
		9	3	15回	
	10	16回	Action Planの策定と実行③		
	17	17回	Action Planの策定と実行④		
	24	18回	Action Planの策定と実行⑤		
	10	2	19回	Action Planの策定と実行⑥	
Stage3	10	15	20回	Action Planの策定と実行⑦	実践したAction Planの検証を行う。修得したデータ、設定した問題意識へのアプローチに対する正当性、先行研究の妥当性、取得したデータ、サンプルから明らかになったことなどをそれぞれまとめていく。
		29	21回	Action Planの検証と分析①	
	11	5	22回	Action Planの検証と分析②	
		12	23回	Action Planの検証と分析③	
		19	24回	Action Planの検証と分析④	
26	25回	Action Planの検証と分析⑤			
Stage4	12	3	26回	研究活動のまとめ①	研究活動のまとめ作業を行う。研究発表会での発表を見据えて、今まで行ってきた活動を論理的にまとめ、成果物を作成する。①研究ポスター、②Action Report、③研究発表会用発表プレゼンテーションを作成する。
		17	27回	研究活動のまとめ②	
	1	14	28回	研究活動のまとめ③	
		24	29回	研究活動のまとめ④	
		28	30回	研究活動のまとめ⑤	
	研究報告会	2	4	31回	
15			32回	H30年度SGH研究報告会	
Stage4	2	18	33回	研究活動のまとめ⑥	
まとめ		25	34回	締括と振り返り	

## ■授業実施の特徴

### ①13のプロジェクト型課題研究

生徒が自ら興味関心のあるゼミを選択し、主体的能動的に研究活動を行う。また、昨年度まで隔週実施100分授業にて展開していたが、平日実施の毎週1単位授業に変更を加えた。これは、研究活動を行う際には定期的に議論する機会が必要であるという経験から変更を加えた。

### ②Action Planの策定と実行

PBL型課題研究の実施を行っているため、各ゼミは必ず実践活動を策定する。

### ③PDCAサイクルへの意識

各テーマに従った問題意識の設定、問題にアプローチするAction Planの策定、実行、再策定を指導上意識している。

### ④校外連携

校外連携は必ず確保し、外部機関からの助言、指導および実践活動に対する協力体制を構築している。

### ⑤海外フィールドワーク（カンボジア）

2年生の海外フィールドワークは実践活動を行うことを目的として実施する。生徒たちが直接現地と関わり、実践活動を行うことができたための環境を整備している。

### ⑥ルーブリックの運用

ルーブリックは2種類作成する。1つ目は、課題研究用ルーブリックである。（内容は研究開発完了報告書に掲載する。）本ルーブリックは本校の課題研究用に作成し、1段階ごとに課題をクリアしていくイメージで作成している。自分達の研究活動が論理的展開になっているか否かを可視化させる。また、そのルーブリックには社会とのかかわりに関する項目があり、論理的展開と実社会とのつながりを生徒主体で達成できるように作成した。2つ目は、自己成長評価ルーブリックである。自らの成長を感覚ではなく、具体的な指標で評価することにより、自らの成長を客観的に把握できるように作成している。また、このルーブリックは自己の成長、集団の成長、校外への広がり、世界への広がり、実社会とのつながりを意識した4つのステージで構成している。これらのルーブリックを導入することで、生徒の課題研究力の向上と教員のファシリテート力向上を目的とする。

### ⑦課題研究の個別最適化への取り組み

課題研究の個別最適化に向けた取り組みとして、今年度2点の改革を行った。1点目は各ゼミ内に様々な研究テーマを設定した。これにより校内に約70~80の課題研究を実施することで、生徒の興味関心に基づく、個別最適化に向けて尽力した。2点目は、各科コースの特性に応じた課題研究手法の開発である。SGH事業を基本とし、1ヵ年留学を行う英語科においては、2年次の課題研究を留学中にも取り組めるように、環境整備と指導手法の開発を行った。また、医進コースの特性を鑑み、医進コース独自の課題研究を地域協働に基づいたグローバルな展開により開発実施した。

## 自己成長評価ルーブリック

<b>岡山学芸館SGH 自己成長評価ルーブリック</b>				
観点	自己の成長	チームの成長	校外への広がり	世界への広がり
評価レベル	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4
グローバルマインド	他国で起こっている社会課題が自分との関連性があることを理解し、グローバルマインドを自分なりに定義できている状態。	他者の考え方や捉え方を他者の価値観を基に理解することができている状態。他者を否定せず受け入れるマインドを持っている状態。	社会課題の解決のために、他者同士が協働、協力していかなくてはならないことを理解し、校外活動に対して積極的に参加できている状態。	カンボジアの社会課題に対して、自らのテーマからの視点に留まらず、多面的に捉え、理解することに努めることができている状態
問題解決力	興味のある社会課題に対して、その問題の構造を分析し、理解することができている状態。（問題の原因について理解できている状態。）	興味のある社会課題の構造を理解した上で、その解決に必要な行動策定を考えることができる状態。	興味のある社会課題の解決（研究活動）のために行動策定を校外の外部機関と連携して行っている状態。または協力を得られている状態。	興味のある社会課題の解決（研究活動）のための行動をカンボジアで実践することができている状態。
交渉型コミュニケーション能力	自らの意見をはっきりと相手に伝えることができている状態。また、英語を用いて意見交換をするスキルが大切であると感じている状態。	相手の意見を尊重した上で、自らの意見をはっきりと相手に伝えることができている状態。また、CEFR A2以上の英語力を有している状態。	課題研究や興味関心を深めるために、NPOや企業に相談・助言をもらっている状態。またCEFR A2以上の英語力を有している状態。	課題研究を深めるために、国外の機関と協力交渉が実現できている状態。また、CEFR B1以上の英語力を有している状態。
協働力	課題研究やグループワークを行う際、自分の役割を捉え、チームのために行動することができている状態。	課題研究やグループワークを行う際、全員の役割分担を明確に把握し、自らの役割を全うできている状態。	課題研究や興味関心を深めるために、国内のNPOや企業等の外部機関と協力体制を構築するために行動できている状態。	課題研究や興味関心を深めるために、国外のNPOや企業等の外部機関と具体的な協働方法を構築するために行動できている状態。
実践力	校内で募集しているボランティア活動や社会貢献活動に参加している状態。	校内で募集しているボランティア活動や社会貢献活動に対して、継続的（年間複数回）に参加できている状態。	校外の課題研究発表会や勉強会に参加し、自らの想いや考えを発表したり伝えたりすることができている状態。	校外の課題研究発表会や勉強会に参加し、自らの想いや考えを英語で発表したり伝えたりすることができている状態。

## 課題研究ルーブリック

<b>岡山学芸館SGH 課題研究ルーブリック</b>				
観点	準備	行動	チェック	明確化
評価レベル	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4
問題意識の設定	興味関心が定まっており、何に対して研究活動するのかイメージできている状態。	先行研究で何を行うのが明確になっている状態。（読む本、論文、調べるデータ等が分かっている）	先行研究を通して、研究を行う社会課題が客観的に立証できている状態。（問いが問いとして成立している状態）	研究タイトルおよびサブタイトルが決定しており、明確に課題研究の問題意識を他者に説明できる状態。
Action Planの策定	問題意識がある程度明確化されており、その解決にあたりどのような活動が効果的であるか議論できている状態。	問題意識をある程度明確化されており、自分達が、どこに、何を、どうやって活動するのか議論できている状態。	問題意識が明確化しており、どこに、何を、どうやって活動するのか決定している状態。また、効果測定の議論ができている状態。	問題意識が明確化しており、どこに、何を、どうやって活動するのか、また効果測定の準備が完了している状態。
Action Planの実行	問題意識に対応した行動になっているか確認ができている状態。また、外部連携機関が決定している状態。	活動の日時、場所が決定しており、行動の準備がすべて整っている状態。	実際に行動を行い、活動状況をポートフォリオ化できている状態。（活動履歴を残している）	実際に行った行動を振り返り、その効果を測定し始める準備が整っている状態。（取得したデータの整理ができている状態。）
Actionの効果測定	自分達が取得し整理したデータから、問題意識に従ったデータを抽出できている状態。	抽出したデータの関連性を明らかにし、グラフ等により適切にデータの可視化が行われている状態。	抽出したデータの関連性を明らかにし、問題意識に呼応したものであることを論理的に明らかにできている状態。	今一度、問題意識の設定から行動、効果測定までを整理し直し、論理的な道筋が立てられているか確認できている状態。
研究の考察	自分達の先行研究、問題意識、Action、効果測定のすべての素材がそろっていることを確認できている状態。	問題意識（リサーチクエスト）の答えとなる結論、データに基づく事実（根拠）としてまとめられている状態。	得られたデータ（事実）から新たな問いを発見し、次年度に向けた引き継ぎ事項がまとめられている状態。	すべての成果物の作成が完了し、自分達の研究活動のすべてが可視化されている状態。

< 卷末資料 >



海外ボランティア回数	1~2回	60%	71%	100%	43%	75%	30%	100%	22%	0%	90%	100%	88%	40%	65%	50%	75%	50%	67%	63%	71%
	3~5回	27%	16%	0%	38%	13%	32%	0%	44%	5%	0%	100%	8%	40%	21%	50%	20%	50%	27%	13%	14%
	6~10回	7%	6%	0%	12%	13%	21%	0%	18%	5%	0%	5%	4%	0%	7%	0%	5%	0%	7%	13%	14%
	11回以上	7%	6%	0%	7%	0%	17%	0%	16%	0%	0%	0%	0%	20%	7%	0%	0%	0%	0%	13%	0%
今後も継続して買読活動を行いたい	はい		80%	100%	88%	93%	89%	97%	86%	100%	94%	87%	89%	78%	90%	85%	94%	89%	94%	86%	97%
	いいえ		20%	0%	12%	7%	11%	3%	14%	0%	6%	13%	11%	22%	10%	15%	6%	11%	6%	14%	3%
海外進学を希望する	はい	16%	23%	6%	7%	15%	12%	8%	15%	7%	14%	8%	14%	2%	14%	8%	17%	7%	10%	13%	19%
	いいえ	54%	53%	83%	67%	57%	60%	51%	51%	68%	54%	71%	57%	63%	57%	49%	50%	65%	57%	62%	44%
	どちらともいえない	30%	23%	11%	26%	21%	29%	41%	34%	25%	32%	21%	29%	35%	29%	44%	33%	28%	32%	25%	37%
海外留学を希望する	はい	35%	42%	17%	43%	19%	41%	15%	45%	21%	34%	22%	38%	16%	46%	19%	43%	21%	40%	20%	41%
	いいえ	43%	35%	65%	36%	37%	35%	54%	25%	59%	37%	62%	38%	57%	32%	43%	29%	54%	34%	55%	27%
	どちらともいえない	23%	23%	18%	21%	18%	24%	31%	30%	20%	29%	16%	24%	27%	22%	38%	29%	25%	26%	25%	31%
国際関連を学べる国内大 学へ進学希望する	はい	16%	30%	9%	25%	8%	31%	15%	32%	9%	25%	6%	28%	5%	34%	6%	33%	10%	24%	9%	27%
	いいえ	46%	44%	71%	46%	64%	33%	48%	30%	55%	31%	62%	39%	62%	38%	45%	28%	54%	33%	55%	32%
	どちらともいえない	38%	27%	20%	29%	28%	36%	38%	38%	35%	44%	32%	34%	33%	27%	50%	40%	36%	43%	36%	41%
国際関連を学べる海外大 学へ進学希望する	はい	13%	24%	7%	11%	8%	16%	10%	21%	5%	17%	4%	17%	5%	21%	4%	21%	9%	12%	5%	19%
	いいえ	57%	49%	76%	56%	70%	54%	56%	42%	68%	49%	71%	55%	59%	52%	52%	43%	58%	50%	62%	41%
	どちらともいえない	29%	27%	17%	33%	22%	30%	34%	38%	26%	34%	25%	28%	36%	27%	44%	36%	32%	38%	33%	41%
将来国際的職業で世界で 活躍したい	はい	27%	31%	16%	36%	16%	32%	16%	36%	16%	25%	13%	27%	14%	32%	16%	25%	12%	22%	18%	36%
	いいえ	35%	36%	51%	31%	52%	30%	38%	22%	47%	31%	49%	34%	52%	30%	39%	23%	47%	32%	51%	23%
	どちらともいえない	39%	33%	32%	33%	32%	35%	46%	42%	38%	44%	38%	40%	34%	38%	46%	51%	41%	46%	31%	42%
自分の長所短所を 自覚している	あてはまる	65%	70%	60%	69%	62%	61%	61%	62%	65%	68%	63%	75%	66%	74%	63%	69%	59%	68%	60%	62%
	あてはまらない	7%	6%	9%	6%	10%	9%	5%	6%	5%	5%	6%	2%	3%	5%	9%	4%	7%	6%	7%	9%
	どちらともいえない	28%	24%	31%	25%	27%	34%	34%	31%	30%	27%	32%	22%	31%	21%	28%	27%	34%	27%	33%	29%
自分の長所を活かせる	あてはまる	45%	51%	42%	48%	42%	36%	46%	48%	37%	39%	38%	44%	44%	49%	35%	44%	40%	43%	37%	38%
	あてはまらない	15%	13%	15%	12%	16%	12%	11%	13%	11%	17%	13%	10%	9%	10%	11%	13%	15%	11%	15%	14%
	どちらともいえない	39%	36%	43%	40%	42%	52%	43%	39%	51%	44%	49%	46%	48%	42%	54%	43%	45%	46%	48%	48%
自分の短所改善の努力を している	あてはまる	50%	61%	55%	56%	56%	53%	62%	57%	58%	62%	53%	67%	54%	69%	57%	63%	58%	61%	61%	60%
	あてはまらない	10%	10%	13%	12%	17%	10%	0%	6%	8%	7%	10%	6%	11%	4%	7%	8%	6%	9%	4%	10%
	どちらともいえない	40%	30%	31%	32%	27%	36%	38%	36%	34%	31%	38%	27%	35%	27%	36%	29%	36%	30%	36%	30%
自己意見を表現できる	あてはまる	54%	38%	44%	51%	33%	49%	44%	51%	41%	47%	36%	53%	37%	58%	34%	57%	42%	57%	41%	48%
	あてはまらない	18%	21%	17%	14%	19%	12%	13%	12%	15%	12%	23%	10%	17%	8%	20%	10%	12%	11%	15%	10%
	どちらともいえない	28%	41%	39%	34%	48%	39%	43%	37%	44%	41%	41%	37%	46%	34%	46%	34%	46%	32%	45%	42%
自己意見で人を納得でき る	あてはまる	48%	32%	39%	47%	36%	41%	43%	44%	35%	44%	26%	48%	29%	47%	30%	48%	34%	52%	33%	40%
	あてはまらない	15%	17%	20%	14%	20%	15%	15%	12%	18%	15%	24%	11%	20%	11%	20%	14%	14%	12%	18%	14%
	どちらともいえない	37%	51%	41%	39%	44%	43%	43%	44%	47%	42%	50%	41%	51%	42%	50%	39%	52%	37%	49%	46%
自己意見を発表できる	あてはまる	38%	10%	35%	44%	19%	38%	41%	40%	20%	34%	23%	43%	20%	43%	23%	44%	25%	47%	25%	37%
	あてはまらない	28%	34%	29%	17%	45%	28%	22%	24%	40%	23%	39%	20%	35%	20%	32%	17%	27%	18%	41%	23%
	どちらともいえない	34%	57%	36%	39%	36%	34%	37%	36%	41%	43%	38%	37%	45%	37%	45%	39%	48%	35%	34%	40%

自己意見を英語で表現できる	あてはまる	18%	2%	25%	15%	21%	7%	15%	7%	5%	21%	13%	25%	5%	13%	11%	19%	6%	21%	4%	20%	8%	22%	10%	19%	
相手の立場を考へて行動できる	あてはまる	57%	66%	66%	64%	67%	61%	59%	61%	61%	65%	48%	61%	62%	71%	63%	73%	55%	71%	53%	67%	62%	71%	68%	71%	
	あてはまらない	10%	4%	10%	10%	7%	7%	7%	6%	4%	6%	3%	5%	8%	2%	5%	5%	5%	10%	5%	4%	6%	5%	6%	4%	4%
自己と異なる意見を理解できる	あてはまる	60%	68%	71%	61%	74%	69%	74%	74%	68%	77%	49%	69%	69%	79%	63%	85%	59%	81%	67%	80%	64%	75%	75%	72%	75%
	あてはまらない	8%	9%	8%	12%	6%	7%	7%	2%	5%	5%	5%	4%	4%	3%	1%	1%	10%	3%	3%	3%	6%	4%	4%	3%	4%
物事を客観的に判断できる	あてはまる	48%	50%	65%	51%	59%	48%	54%	54%	46%	55%	43%	60%	60%	55%	45%	67%	51%	67%	47%	59%	50%	64%	64%	59%	
	あてはまらない	12%	12%	10%	17%	8%	13%	6%	6%	9%	9%	5%	6%	6%	7%	10%	7%	7%	5%	5%	4%	10%	4%	4%	5%	
異なる意見を尊重できる	あてはまる	63%	66%	73%	57%	72%	62%	71%	58%	71%	72%	48%	70%	70%	78%	60%	81%	61%	80%	64%	78%	65%	79%	79%	68%	
	あてはまらない	8%	10%	7%	15%	6%	8%	1%	7%	4%	4%	10%	4%	4%	2%	7%	0%	6%	3%	3%	3%	4%	3%	3%	3%	
異なる価値観とコミュニケーションできる	あてはまる	51%	41%	55%	39%	57%	43%	43%	43%	35%	49%	33%	47%	47%	49%	36%	55%	34%	57%	34%	56%	40%	59%	59%	41%	
	あてはまらない	18%	20%	12%	25%	13%	16%	14%	18%	13%	13%	18%	13%	13%	17%	10%	10%	18%	8%	19%	11%	12%	9%	12%	11%	
異なる価値観と協力し新価値観を創出できる	あてはまる	52%	39%	53%	37%	53%	47%	45%	45%	35%	53%	36%	53%	53%	41%	36%	57%	40%	61%	35%	60%	45%	57%	41%	51%	
	あてはまらない	10%	11%	13%	20%	10%	10%	6%	6%	12%	6%	3%	8%	8%	5%	14%	6%	12%	5%	9%	6%	7%	10%	6%	9%	
ツールで情報を調べて入まできる	あてはまる	63%	51%	65%	48%	73%	46%	66%	66%	45%	70%	47%	62%	62%	73%	56%	76%	43%	74%	52%	72%	56%	67%	67%	54%	
	あてはまらない	10%	21%	11%	20%	6%	16%	5%	5%	16%	5%	8%	4%	4%	5%	6%	5%	11%	6%	9%	9%	9%	7%	7%	9%	
情報の信頼性を冷静に判断できる	あてはまる	50%	51%	58%	43%	57%	39%	49%	49%	40%	54%	44%	53%	53%	45%	42%	56%	43%	59%	42%	53%	44%	58%	44%	52%	
	あてはまらない	9%	13%	11%	16%	5%	16%	8%	8%	15%	7%	7%	8%	7%	7%	6%	7%	11%	5%	8%	7%	8%	8%	8%	8%	
課題解決のために目標計画できる	あてはまる	51%	41%	47%	39%	59%	42%	50%	40%	40%	48%	33%	54%	39%	51%	41%	62%	35%	59%	38%	60%	50%	58%	42%	52%	
	あてはまらない	14%	23%	19%	18%	14%	16%	14%	14%	16%	17%	11%	9%	9%	13%	21%	7%	17%	7%	12%	10%	10%	11%	18%	9%	
課題解決のために計画実行できる	あてはまる	45%	36%	50%	44%	48%	41%	45%	41%	41%	41%	30%	48%	30%	41%	36%	56%	31%	51%	28%	53%	46%	49%	36%	48%	
	あてはまらない	15%	23%	16%	19%	15%	19%	18%	16%	16%	15%	15%	8%	8%	16%	22%	9%	20%	10%	16%	10%	8%	13%	15%	9%	
日本文化に興味がある	あてはまる	56%	36%	54%	40%	59%	39%	57%	39%	34%	54%	41%	51%	51%	36%	31%	58%	26%	55%	36%	58%	37%	58%	28%	50%	
	あてはまらない	18%	29%	24%	29%	17%	29%	15%	15%	28%	17%	10%	14%	14%	25%	32%	18%	31%	16%	26%	14%	24%	18%	33%	18%	
外国文化に興味がある	あてはまる	55%	30%	47%	34%	55%	32%	49%	27%	48%	48%	33%	54%	31%	49%	29%	51%	25%	54%	30%	60%	35%	57%	26%	53%	
	あてはまらない	19%	36%	28%	32%	17%	38%	21%	33%	23%	23%	15%	15%	15%	27%	37%	23%	33%	17%	33%	17%	24%	19%	37%	19%	
	どちらともいえない	27%	34%	25%	33%	29%	30%	30%	30%	39%	29%	52%	31%	42%	31%	34%	26%	42%	29%	36%	23%	41%	24%	37%	28%	



文化の差異を指摘し理解できる	あてはまる	42%	17%	36%	25%	40%	21%	40%	18%	37%	17%	39%	19%	44%	23%	42%	29%	42%	26%	41%
	あてはまらない	16%	37%	25%	31%	23%	34%	19%	34%	20%	17%	20%	29%	18%	19%	17%	21%	17%	24%	16%
	どちらともいえない	42%	46%	39%	44%	36%	44%	41%	48%	42%	58%	52%	41%	52%	38%	59%	50%	42%	50%	43%
日本や世界の出来事を理解している	あてはまる	53%	47%	46%	32%	45%	39%	42%	23%	36%	44%	41%	25%	47%	38%	42%	45%	39%	41%	40%
	あてはまらない	19%	29%	17%	28%	16%	21%	24%	28%	24%	18%	25%	19%	18%	21%	21%	16%	20%	18%	16%
	どちらともいえない	28%	24%	37%	40%	39%	41%	34%	48%	40%	36%	36%	40%	56%	35%	41%	39%	40%	41%	44%
日本のニュースを説明できる	あてはまる	39%	21%	36%	24%	37%	20%	23%	21%	22%	23%	27%	19%	30%	13%	31%	25%	30%	27%	33%
	あてはまらない	24%	40%	27%	31%	20%	38%	32%	30%	29%	27%	31%	34%	25%	33%	29%	20%	28%	31%	22%
	どちらともいえない	36%	39%	37%	45%	43%	42%	45%	48%	49%	45%	43%	47%	45%	54%	41%	55%	42%	42%	44%
外国のニュースを説明できる	あてはまる	27%	15%	28%	19%	25%	11%	16%	8%	15%	14%	13%	8%	22%	6%	16%	13%	17%	11%	19%
	あてはまらない	38%	53%	31%	38%	33%	46%	43%	50%	42%	39%	50%	44%	38%	49%	42%	38%	40%	48%	37%
	どちらともいえない	35%	32%	41%	43%	42%	43%	41%	42%	43%	48%	41%	38%	40%	45%	41%	49%	43%	41%	44%
グローバルの意味を説明できる	あてはまる	24%	18%	28%	18%	38%	21%	35%	13%	42%	18%	41%	17%	37%	18%	42%	11%	43%	17%	32%
	あてはまらない	30%	55%	32%	38%	25%	46%	26%	54%	19%	32%	23%	37%	26%	40%	23%	39%	21%	49%	23%
	どちらともいえない	45%	26%	41%	44%	37%	33%	39%	33%	39%	44%	35%	46%	38%	42%	35%	51%	35%	34%	45%
国際の意味を説明できる	あてはまる	23%	12%	28%	17%	34%	15%	28%	12%	27%	14%	31%	10%	35%	11%	36%	13%	35%	8%	28%
	あてはまらない	28%	54%	30%	44%	27%	52%	29%	55%	25%	46%	33%	41%	27%	44%	27%	37%	28%	53%	27%
	どちらともいえない	48%	34%	42%	39%	39%	33%	43%	33%	48%	40%	41%	36%	38%	45%	37%	49%	37%	39%	45%
グローバルと国際の意味の違い説明できる	あてはまる	16%	5%	21%	15%	28%	8%	14%	7%	16%	9%	24%	7%	30%	7%	24%	8%	29%	3%	22%
	あてはまらない	41%	63%	38%	44%	33%	59%	52%	65%	48%	53%	40%	49%	38%	51%	35%	51%	38%	61%	46%
	どちらともいえない	43%	32%	41%	41%	40%	33%	34%	28%	36%	38%	36%	44%	32%	42%	41%	42%	33%	36%	32%
世界の課題の原因を理解している	あてはまる	31%	16%	32%	21%	31%	14%	23%	15%	20%	17%	29%	9%	33%	21%	31%	21%	25%	17%	22%
	あてはまらない	29%	45%	28%	36%	28%	41%	32%	44%	32%	41%	32%	38%	27%	30%	29%	28%	29%	38%	37%
	どちらともいえない	39%	39%	40%	43%	41%	44%	45%	41%	48%	50%	39%	53%	40%	50%	40%	51%	47%	45%	41%
世界の課題の影響を理解している	あてはまる	36%	18%	36%	20%	33%	16%	20%	18%	22%	25%	26%	12%	34%	28%	33%	23%	26%	18%	26%
	あてはまらない	26%	43%	27%	34%	23%	43%	34%	43%	29%	36%	33%	32%	27%	28%	26%	31%	32%	34%	32%
	どちらともいえない	38%	38%	38%	46%	44%	41%	45%	39%	48%	43%	40%	56%	39%	45%	40%	46%	42%	48%	42%
世界の課題を身近に結び付けられる	あてはまる	28%	18%	36%	19%	35%	13%	22%	12%	24%	18%	32%	10%	32%	16%	34%	17%	34%	22%	26%
	あてはまらない	31%	46%	28%	39%	26%	46%	35%	45%	33%	37%	41%	35%	28%	30%	32%	31%	27%	39%	30%
	どちらともいえない	41%	36%	36%	42%	39%	41%	43%	43%	42%	47%	37%	52%	40%	54%	34%	53%	39%	39%	44%
世界の課題は若者が必ず解決できる	あてはまる	35%	27%	36%	20%	36%	20%	25%	31%	31%	32%	43%	12%	34%	19%	31%	23%	25%	21%	32%
	あてはまらない	24%	24%	21%	21%	24%	31%	24%	28%	24%	20%	24%	25%	23%	19%	23%	23%	28%	23%	19%
	どちらともいえない	40%	49%	42%	56%	44%	56%	44%	41%	45%	48%	48%	33%	43%	62%	46%	54%	47%	56%	49%

世界で活躍するグローバルリーダーに1番目に必要な素質	リーダーシップ	39%	39%	52%	37%	38%	30%	31%	37%	27%	39%	31%	26%	23%	25%	27%	32%	24%	17%	22%	25%	20%	19%	20%
	異なる文化や価値観を受け入れる許容力	11%	7%	8%	11%	14%	10%	12%	19%	13%	19%	19%	18%	17%	17%	19%	20%	14%	17%	11%	19%	7%	16%	19%
	外国語によるコミュニケーション能力	13%	16%	12%	13%	12%	25%	19%	19%	19%	13%	15%	17%	20%	16%	25%	15%	26%	19%	24%	14%	26%	23%	14%
	逆境に耐え、粘り強く課題に取り組むチャレンジ精神	8%	2%	5%	3%	8%	7%	10%	4%	5%	7%	5%	6%	6%	10%	4%	5%	5%	7%	8%	10%	7%	5%	14%
	競合他者との競争力	1%	2%	3%	3%	0%	2%	0%	2%	1%	0%	2%	2%	2%	1%	0%	0%	2%	1%	3%	3%	1%	1%	3%
	現状を分析し、未来を予測する先見性	5%	8%	6%	2%	8%	8%	9%	8%	5%	12%	3%	8%	3%	8%	8%	11%	5%	9%	10%	10%	6%	11%	4%
	高度な知識を備えた専門性	3%	3%	1%	4%	1%	2%	2%	2%	2%	2%	3%	2%	2%	0%	2%	0%	2%	2%	2%	1%	7%	4%	1%
	新しい考えや価値観を生み出す創造性	8%	11%	6%	9%	10%	6%	8%	8%	7%	8%	5%	8%	10%	13%	7%	10%	5%	10%	11%	10%	7%	8%	8%
	世界や社会に対する貢献力	5%	9%	1%	11%	3%	6%	6%	5%	7%	5%	15%	3%	9%	7%	9%	6%	6%	6%	11%	4%	7%	5%	9%
	利益や成功を追求する向上心	6%	3%	7%	7%	7%	4%	6%	6%	4%	6%	8%	5%	5%	5%	1%	5%	4%	5%	4%	6%	7%	8%	3%
世界で活躍するグローバルリーダーに2番目に必要な素質	リーダーシップ	14%	34%	17%	25%	25%	32%	20%	27%	17%	20%	19%	23%	14%	17%	19%	14%	17%	17%	20%	14%	18%	12%	13%
	異なる文化や価値観を受け入れる許容力	15%	8%	14%	9%	11%	5%	11%	12%	15%	8%	11%	13%	17%	15%	15%	9%	11%	14%	14%	13%	14%	13%	15%
	外国語によるコミュニケーション能力	15%	20%	16%	15%	12%	18%	19%	19%	16%	16%	11%	18%	17%	18%	17%	17%	15%	21%	22%	16%	19%	15%	17%
	逆境に耐え、粘り強く課題に取り組むチャレンジ精神	8%	5%	5%	6%	6%	3%	7%	7%	3%	10%	7%	8%	11%	9%	8%	9%	6%	10%	9%	13%	9%	11%	8%
	競合他者との競争力	3%	1%	1%	7%	3%	3%	3%	3%	6%	2%	7%	3%	1%	2%	1%	0%	6%	2%	3%	1%	3%	2%	4%
	現状を分析し、未来を予測する先見性	7%	9%	4%	4%	10%	7%	11%	8%	10%	10%	11%	7%	12%	12%	11%	13%	9%	9%	2%	10%	8%	11%	10%
	高度な知識を備えた専門性	5%	1%	3%	5%	3%	2%	3%	5%	5%	5%	2%	4%	3%	5%	3%	1%	2%	3%	5%	7%	2%	5%	4%
	新しい考えや価値観を生み出す創造性	7%	12%	6%	9%	7%	13%	12%	12%	6%	15%	11%	13%	9%	8%	9%	12%	13%	10%	9%	12%	9%	15%	11%
	世界や社会に対する貢献力	3%	5%	4%	12%	2%	6%	4%	6%	6%	2%	7%	5%	9%	8%	4%	4%	11%	5%	8%	5%	7%	5%	11%
	利益や成功を追求する向上心	21%	5%	31%	10%	19%	12%	9%	10%	10%	8%	21%	17%	9%	7%	6%	9%	14%	11%	8%	9%	9%	11%	10%
世界で活躍するグローバルリーダーに3番目に必要な素質	リーダーシップ	12%	21%	11%	14%	11%	15%	13%	19%	12%	18%	11%	16%	11%	13%	13%	12%	12%	11%	14%	15%	14%	9%	12%
	異なる文化や価値観を受け入れる許容力	7%	11%	9%	10%	10%	15%	15%	11%	9%	10%	11%	9%	8%	13%	13%	15%	15%	17%	10%	11%	12%	11%	10%
	外国語によるコミュニケーション能力	25%	11%	30%	18%	27%	14%	13%	14%	14%	19%	18%	16%	16%	13%	11%	15%	18%	16%	10%	18%	11%	14%	18%
	逆境に耐え、粘り強く課題に取り組むチャレンジ精神	11%	4%	9%	12%	8%	12%	11%	10%	10%	12%	8%	11%	11%	16%	6%	10%	8%	13%	10%	11%	8%	12%	13%
	競合他者との競争力	3%	4%	1%	5%	3%	5%	3%	3%	4%	2%	5%	3%	3%	2%	1%	1%	2%	3%	5%	2%	3%	3%	2%
	現状を分析し、未来を予測する先見性	9%	11%	8%	8%	9%	11%	12%	12%	9%	7%	11%	13%	13%	14%	8%	10%	7%	10%	8%	10%	9%	13%	10%
	高度な知識を備えた専門性	2%	10%	3%	5%	7%	7%	5%	4%	4%	7%	7%	5%	5%	5%	7%	5%	4%	3%	4%	3%	5%	6%	6%
	新しい考えや価値観を生み出す創造性	10%	15%	10%	10%	12%	10%	11%	12%	12%	13%	5%	13%	10%	14%	22%	13%	20%	13%	16%	14%	17%	15%	10%
	世界や社会に対する貢献力	7%	9%	7%	13%	5%	8%	10%	10%	7%	7%	11%	8%	7%	9%	9%	10%	10%	9%	13%	10%	12%	11%	15%
	利益や成功を追求する向上心	14%	4%	12%	6%	8%	4%	7%	8%	8%	10%	7%	10%	10%	7%	12%	9%	4%	5%	9%	6%	8%	6%	3%
視野が広がった	はい			70%				68%			13%	75%		85%		90%		78%		82%		84%		81%
	いいえ			13%			6%			7%	25%	3%		3%		4%		4%		5%		5%		3%
	どちらともいえない			18%			26%			15%	62%	22%		12%		7%		18%		14%		10%		16%
新たな発想や思惑を持つようになった	はい			69%			67%				13%	73%		83%		90%		76%		82%		82%		81%
	いいえ			12%			7%			8%	30%	6%		5%		3%		5%		5%		6%		4%
	どちらともいえない			18%			26%			16%	57%	21%		12%		7%		19%		14%		12%		15%
世界の出来事への興味が深まった	はい			65%			63%				13%	63%		79%		81%		73%		75%		73%		69%
	いいえ			13%			9%			10%	28%	8%		6%		5%		6%		6%		8%		6%
	どちらともいえない			22%			28%			23%	59%	29%		15%		14%		20%		18%		19%		25%

自分の考えを発表したり ディスカッションできる ようになった	はい					46%				45%		52%	13%	54%		58%		67%	63%	60%	61%
	いいえ					21%				16%		14%	30%	14%		10%		7%	10%	13%	9%
	どちらともいえない					32%				39%		34%	57%	31%		32%		26%	27%	28%	29%
社会問題に高校生がで きると思う	はい					65%				67%		76%	20%	69%		80%		86%	78%	82%	82%
	いいえ					11%				7%		12%	27%	7%		5%		4%	6%	6%	3%
	どちらともいえない					24%				26%		13%	53%	25%		15%		10%	15%	11%	16%

# SGH NEWS

令和元年度 No.1



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校

## SGH校認定5年目を迎えて



岡山学芸館高等学校  
校長 森 健太郎

本校が文部科学省 SGH 校に認定されて5年目を迎えました。昨年度は生徒達の社会問題意識や関心が高まり、校外大会で受賞するなど、4年間の課題研究活動の成果が着実にあがっています。

英語表現意識も上昇し、イベントの際は臆せず英語で発表する姿が増え、頼もしく感じています。

実体験から学んだことは、大学受験に限らず、今後の人生で大いに役立つものです。生徒のみなさんが将来へ向かって立派に羽ばたけるよう、また授業を越えた社会貢献活動を行ってくださるよう、教員一同、精一杯サポートしていきたいと思っています。本年度も本校の活動を見守っていただきたく、宜しくお願い申し上げます。

## 令和元年度のSGH授業が始まりました

本年度のSGH授業を開講しました。清秀高等部・医進・SV・特進・英語科の高校1年生は「グローバル課題研究Ⅰ」、2年生は「グローバル課題研究Ⅱ」、3年生希望者は「グローバル課題研究Ⅲ」の授業を受講します。

「グローバル課題研究Ⅰ」では、2年次に実施する貢献活動の基礎となる「グローバル・マインド」と「問題解決能力」を中心に学びます。SGH対象クラスメンバー全員をシャッフルしたクラスを編成し、同じグループに一人も同じクラスの生徒がいない状況でグループワークを行い、多様性を身につけていきます。



先日は「新聞紙タワー」、「バーンガ」「国当てゲーム」

などを行い、教室の中で異文化コミュニケーション、交渉型コミュニケーションを体験しました。生徒たちは、相手の立場に立って考え、受け入れることや、自分の主張だけではなく相手の要求を共に解決しようとする事で問題が解決に向かう事を実体験から学ぶことができました。

知っているようで実際にはできなかったことに改めて気付いた生徒も多かったようです。本年度の1年生も積極的に意見を交わし合い、良い雰囲気の中で学びを深めています。



## SGH甲子園2019で優秀賞受賞!

3月23日、全国のSGH校とアソシエイト校が一齊に関西学院大学に集まり、一年間の成果を発表する「SGH甲子園2019」が開催されました。本校からは校内選考を突破したトンレサップ湖水質調査ゼミが出場し、「人と自然との関わり〜トンレサップ湖周辺の調査を通して〜」を発表し、日本語ポスタープレゼンテーションの部で全国2位の優秀賞を受賞しました。

分析・仮説・計画・検証・実行・反省・表現・発信などのプロセスを丁寧に追及した活動が評価されたようです。彼らの3年次での活動にも期待が高まります。



詳しい活動情報は  
こちら!

岡山学芸館高等学校SGH活動ブログ  
<http://gakugeikansgh.jugem.jp/>

岡山学芸館高等学校SGHフェイスブック  
<https://www.facebook.com/gakugeikansgh/>



## 14プロジェクトの活動を開始しました!

グローバル課題研究IIでは、14のプロジェクトを開始しました。生徒たちは自身が希望したプロジェクトに入り、ゼミ形式の講義を受講しています。

現在は問題意識を明確化させるための先行研究を行っており、選択テーマの取り巻く状況を把握し、海外フィールドワークで行うためのアクションプランを立てています。

今年度は特に生徒の興味や主体性に重点を置いて活動を進めていきます。ゼミ教員が精一杯ファシリテートします。どうぞご期待ください!



### 1 環境調査ゼミ

吉岡先生 20名

いくつかの環境問題に対して、調査や実験を行うことで、何が問題となっているのか、改善に向けて高校生でもできることは何かを考える。



### 2 環境教育ゼミ

木下・上村先生 10名

日本や欧米諸国のリサイクル先進国の環境教育事例を参考にカンボジアでできる環境教育について模索し、現地の農村部と都市部の小学生を対象に実践していく。



### 3 国際医療・看護ゼミ

音田先生 25名

SDGsの3「すべての人に健康と福祉を」に焦点を当てる。途上国における医療向上、健康増進のために、高校生ができることを考え、実践する。



### 4 循環型社会形成ゼミ

茅原先生 8名

国内で起きた公害問題を調査し、日本がどのような歴史的経緯をたどりながら循環型社会を形成するにいたったのかを考察する。



### 5 観光政策提言ゼミ

羽多・橋ヶ谷先生 23名

カンボジアの観光業は急成長を遂げている一方、経済、社会的な課題は残る。そこで、高校生目線での問題解決に向けた調査・取り組みを行う。



### 6 スポーツ支援ゼミ

今井・金田先生 7名

世界の体育授業を比較した上で、カンボジアにおける学校体育の問題点を調べ、その対策案を立て、現地の学校へ提案する。



### 7 国際理解教育ゼミ

ニコル・墨江先生 24名

SDGsに含まれる教育格差や貧困撲滅など地球規模の問題について小学校で出前授業を行い、解決のために何ができるのか考え、具体的な行動を促す授業案を提案する。



### 8 ソーシャルビジネスゼミ

宇根先生 21名

カンボジア自国産業である縫製業の問題点を課題研究として明らかにし、現地高校生と日系企業との商品開発を行うことで、外資依存を脱却する方法を考察する。



### 9 栄養・保健ゼミ

藤田先生 19名

カンボジアに未定着の栄養・保健の知識について、現状を調査する。そして主に子どもたちの現状改善に向けての対策を検討し、現地の小学校などで実践する。



### 10 カンボジア教育支援ゼミ

正躰先生 14名

発展途上国の幼児教育において、遊びや玩具の支援を通して道徳観・規範意識を育み、貢献する。また、保育士の遊びや玩具に対する意識を改革する。



### 11 女性と社会ゼミ

瀧川先生 8名

カンボジアの女性が抱える課題や社会的役割などを、日本社会と比較研究、またカンボジア現地調査も行う。それらを通して、カンボジア社会における女性の生き方を考察する。



### 12 価値観分析ゼミ

青木先生 24名

さまざまな国・文化圏の価値観を比較して、より相手目線の支援のあり方を探求する。自利利他円満を満たす「理想的な支援」策定のための根拠を見つけることが目標。



### 13 多文化共生ゼミ

齋藤先生 19名

岡山市や西大寺など、各地域における多文化共生に関わる問題や政策を調査し、問題の解決、政策の改善を行うために考察を行っていく。



### 14 海洋研究ゼミ

柳先生 16名

瀬戸内海から世界へ発信し、注目を集めている「里海」。日生湾でのアマモ再生活動を通して海を実感。更に、干潟生物多様性調査や課題研究に主体的に取り組む。

# SGH NEWS

令和元年度 No.2



## 校内研究発表会を開催しました



5月14日、SGH 校内研究発表会を実施しました。現在3年生で昨年度本格的にゼミ研究を行った先輩たちから、これから本格的に研究を行う2年生へ、昨年度のプロジェクトの成果

を発表しました。

体育館にずらりと並んだ発表ブース。ステージ上で行う発表とは違い、聴衆が近く、発表者側には反応がダイレクトに感じられます。また、隣のブースでも発表が行われるため、いかに自身の声を聴衆に届けるか、わかりやすく伝えるかが重要です。発表してくれた3年生たちの「伝えたい」気持ちの溢れるプレゼンテーションが、今年の2年生の活動に役立つくれることと思います。



2年生は自分たちの興味のあるブースに行って発表を聴きました。程良い緊張が漂い、普段はにぎやかな生徒たちも真剣に発表を聴く姿勢が見られました。また、発表後には積極的に質問をする2年生と、後輩にできるだけ理解しやすく伝えようとする3年生の姿が見られました。一年後の自分たちの姿を具体化できたのではないのでしょうか。



発表後の3年生は、緊張が解けたのも束の間、自主的にゼミ担当教員と一緒にミニ反省会を行っています。小さな気付きを流すことなく大切に成長して欲しいと思います。

## 外部講師の授業を受講しました



SGHの授業では、SGUである岡山大学をはじめ、大学教授や外部企業による連携授業を実施し、専門的な見地からグローバル社会への学びを深めています。

4月20日には、北陸先端科学技術大学院大学より、川西俊吾教授と元山琴菜先生をお迎えして、「グローバルリーダーとしての考え方」を教えてくださいました。国境を意識せず、地球全体を考え、自分から行動を起こすことの大切さを学びました。



4月27日、シリコンバレーでご活躍されている千田一貴先生にお越しいただき、「自らを Globalization するという Challenge についての考察」という演題で特別講義を受講しました。

「グローバル化」という言葉の概念の整理から、日本とアメリカの文化や価値観の違いなどの社会背景を学んだ後、なぜアメリカでグローバル企業が多く誕生しているのかについて、史実を交えながらご説明頂きました。

5月7日には、日本青年会議所中国地区の菊池大輔さんをお迎えして、SDGs(社会・環境問題への取り組み)をワークシ



ョップ形式で学びました。生徒たちは菊池酒造株式会社の実状をモデルに、食品ロスをなくし、ビジネスチャンスに変えるユニークなアイデアを出し合い、発表を行いました。

## 関西・大阪模擬国連に参加しました

6月19日～21日の3日間、英語科3年生22名が京都国際会議場で開催された関西模擬国連に参加しました。生徒たちは各国大使になりきり、今年の「持続可能な発展による貧困削減」というテーマに則って国連決議案の作成をしました。



国際連合は世界の平和と繁栄のために尽力している機関で



すが、実際の舞台では、世界のためにというグローバルイズムと、各国の利益を守ろうとするナショナリズムの攻防が展開されています。生徒たちにとっては、各国代表として自国の利益のために、

また世界市民として世界の協働のために、自分たちの知恵と経験がいかにかけるのかを学ぶ良い機会となりました。また、英語を使って世界のことについて深く考えている関西圏の高校生たちと交流の機会を持ったことは、生徒たちにとって大きな収穫になりました。

## G20保健大臣会合で政策提言!

6月に大阪にて開催されるG20に向けて、全国各地で閣僚会議が約1年をかけて行われます。

岡山では10月に保健大臣会合が行われる予定です。

この保健大臣会合にて岡山の課題研究を主体的に学ぶ生徒達が世界の閣僚に対して政策提言を行うことになりました。

6月5日、第1回目の勉強会を行い、厚生労働省の方々からのレクチャー、協働校である県立岡山城東高等学校、県立岡山操山高等学校の皆さんとのディスカッションなどを実施しました。



自分達の課題研究を世界に発信する貴重な機会に向けて、みんなで議論を繰り返しています!

## DS (Diversity Studies) プログラム開講!

本校が SGH 授業でお世話になっている北陸先端科学技術大学院大学の川西俊吾教授と元山琴菜先生と共に、本校を「多様性研究」の教育実践校として、本年度1年生希望者34名を対象に、3年間のDS(Diversity Studies)プログラムを行うことになりました。このプログラムでは、多様な視点に基づいた意見



の交換やワークショップを通して、協働と問題解決に向けての実践を行います。

先日行われた第1回目の授業では、3年間のプログラムの初回として、多様性を理解するために、まずは自分を理解することを学びました。自分の個性を知るだけでなく、社会の必要性や基本的倫理のほか、差異ではなく相違として尊重し合えるアイデンティティについて学びました。



授業中は先生方の絶え間ない問いとグループディスカッションの連続で、あっという間に2時間が経過しました。

今後は ICT による Web 授業や、英語特別プログラムとして2泊3日程度の合宿も行う予定です。3年後の生徒の成長が非常に楽しみです!



## 生徒感想(抜粋)

・家に帰った瞬間、家族に内容を話しました。社会の絶対に守らなければいけないことをなぜ守れていないのか問いかげられたことや、幸せの定義が問題を解決することによるものなど1日では話さきれず日曜日もほぼ1日話していました(笑)。

・現時点の自分を見つめなおすことで、自分をより理解出来た気がします。これからこの DS プログラムを受けて3年後自分が少しでも成長していたらいいなと思いました。

SGH  
NEWS  
令和元年度 No.2

SGH広報誌 令和元年度 No2  
2019年7月1日発行

編集 岡山学芸館高等学校SGH運営部  
〒704-8502  
岡山市東区西大寺上1丁目19-19  
☎086-942-3864



岡山学芸館高等学校SGH活動ブログ  
<http://gakugeikansgh.jugem.jp/>

岡山学芸館高等学校SGHフェイスブック  
<https://www.facebook.com/gakugeikansgh/>



# SGH NEWS

令和元年度 No.3



## 2年生海外フィールドワークの報告



2019年8月15～23日、2年生選抜20名がカンボジアフィールドワークのためカンボジアを訪問しました。今回はベトナムからの留学生や、カンボジアのインターナショナルスクールに通う日本人高校生、学生引率として、SGH 2期生(本校卒業生)3名が帯同し、SGHで学んできた事を、大学生というまた新たな視点から後輩達に伝えてもらいました。1年次で授業を中心に5つの素養を学び、2年次では自身が選択したプロジェクトでアクションプランを練り上げてきた生徒たち。仮説に基づいたアクションを積極的に実施し、問題点を肌で感じる事ができたようです。

生徒たちの毎夜の振り返りミーティングでもどんどん質が高まり、根本的な問いを持てるようになりました。

SGH 事業を初めて5年。今年の渡航は、今までの活動がぎゅっと詰まった素敵で充実した時間となりました。

### アクションプランを実施しました!

栄養・保健ゼミは、New Child Care Center とコムル一村の保育園で健康につながるレシピの提供を行いました。カンボジアでは多用されていない「酢」を使用した「酢豚」を、現地ですべて調理し、現地の方たちに食べて



もらいました。免疫力向上を目指し、病気に強い体づくりを提案しました。

国際理解教育ゼミは、次の世代へ自分たちの現地の経験を伝えるための現地観察を行いました。

た。帰国後に日本の小学生にわかりやすく授業を行うことを目標にしています。

カンボジア教育支援ゼミは、手作りのおもちゃの配布や、保育園の教育課題の1つである遊びと教育に対する実践活動を行いました。



女性と社会ゼミは、農村女性の生活をヒアリングしました。避妊が難しい現状は、ポル・ポト政権時代に知識層が殺害され、避妊などの知識が教育として行き届かないことが一因であることを学びました。



環境調査・環境教育ゼミは、チョンクニア小学校および地域住民の方々とのゴミ拾い活動と環境レクチャーを行いました。

毎年継続を続けて今回で5回目となるこの取り組みですが、地域に根付いてきていることが実感できました。ゴミは年々少なくなっているようですが、これは再開発事業のスタートという要因もあるようで、分析が必要です。ゴミの最終処分場の視察も行い、変化を観察しました。

チェイ小学校では NPO 法人ハートオブゴールド様とタイアップ施行中の「健康カードプロジェクト」の活動で、小学校の現状を伺いました。カンボジアは日本の学校にある成長記録カードがありません。チェイ小学校から取り組みを評価して、州政府発行の感謝状を頂きました。





## 現地活動家の活動に帯同しました!



カンボジアに移住して、現地の住民と一緒に自立できるよう力を尽くしている日本人はたくさんいます。NPO 法人 HERO から塚本様をお招きして、カンボジアの

医療と看護に関する勉強を行いました。実際にローカルの病院に訪問、ドクターへの質疑も行わせて頂き、充実した一日を過ごすことができました。

シェムリアップから車で 1 時間半ほどのある村で活動されている Share the Wind の内田さんの活動を一緒にさせていただきました。内田さんは村人から全服の信頼を得て村には無くてはならない存在として、村のために全てを費やしています。村に学校を作り、雇用を産み、様々な課題を解決しながら、一步一步少しずつ歩む内田さんの姿に心打たれると共に、信頼という言葉の意味を生徒達はそれぞれ問い直していました。

生徒たちはご一緒する中で、一見、自分の研究テーマとは関係の無いことでも実は繋がっていて、全てが学びだと認識出来るようになったようでした。



## 講話を拝聴しました!



パンジャサストラ大学の松岡先生のご講演を拝聴しました。生徒たちは、カンボジアの根本的な教育課題を自ら明らかにし、教材を作成して実践されている姿に感銘を受けたようでした。また Sui-joh の額田さんの店舗を訪問し、ビジネスの視点から捉えたカンボジアと企業理念の説明、額田さんの熱意に触れました。

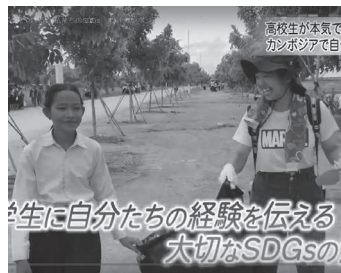
社会の複雑な関係性の中で、自分たちが何に焦点を当てて行動して行くのか、新しい視点を得たようです。

また毎年お世話になっている Kumae の山勢さんのバナナ・ペーパー工房のや、大房さんのコムルー村保育園訪問を訪れ、想いを形にし続ける姿を拝見し、またご講演を通してその想いに触れ、また新たな考え方を学ぶことができました。



生徒達は時間の許す限り質問を繰り返し、有意義な時間を過ごすことができました。常になぜ?を大切にしてくれている様子が伝わってきます。現地に入るからこそ分かる情報を自らの力で GET してくる姿にたくましさを感じました!

9月からKSB瀬戸内海放送「高校生と見つける、私たちのSDGs」のコーナーで、本校SGHの活動の様子がオンエアされています。2回目の放送では、本誌掲載のカンボジアフィールドワークの様子が一部紹介されました。ぜひご覧ください。  
<https://www.youtube.com/watch?v=ktAL0mMuHol>



## 小学校への出前授業



国際理解教育ゼミの生徒たちが、伊島小学校や西大寺小学校など市内近隣小学校で出前授業を実施しました。

「SDGs17の目標」の12番「つくる責任 つかう責任」を題材に、社会問題を身近に感じられる授業を考え、実践しました。それぞれが今できることを考える重要な機会となりました。

SGH  
NEWS  
令和元年度 No.3

SGH広報誌 令和元年度 No3  
2019年10月10日発行

編集 岡山学芸館高等学校SGH運営部  
〒704-8502  
岡山市東区西大寺上1丁目19-19  
☎086-942-3864



岡山学芸館高等学校SGH活動ブログ  
<http://gakugeikansgh.jugem.jp/>

岡山学芸館高等学校SGHフェイスブック  
<https://www.facebook.com/gakugeikansgh/>





# SGH NEWS

令和元年度 No.4



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校

## G20保健大臣会合で提言

10月19日に開幕したG20保健大臣会合において、岡山操山高校・岡山城東高校の皆さんと本校生徒が3校合同で、世界の大臣に向けて政策提言を行いました。



本校からは実際に途上国に渡航した4人が、「ユニバーサルヘルスカバレッジの実現に向けて私たちがすべきこと」を中心に提言しました。

議長を務める加藤勝信厚生労働相に提言書を手渡したり、メディアセンターでの囲み取材など、人生で初めての経験をたくさんさせて頂きました。

地元新聞、テレビ等のメディアに報道頂きました。また、首相・閣僚が外遊する際に日本を紹介する機関紙「We are Tomodachi」に記事が掲載されています。

## ソーシャルリーダーシップキャンプ

11月、今年で3回目となる本校主催のソーシャル・リーダーシップ・キャンプを実施しました。今年度は岡山操山高等学校・邑久高等学校・後楽館高等学校・玉島高等学校の生徒と一緒に実施しました。普段は別の学び舎で日々の学習を行なっている者同士が、一緒に共通テーマについて学び合う効果は絶大です。



ワークショップは、①地域課題を知る ②ヒアリングを通して課題を構造的に明らかにする ③高校生としての

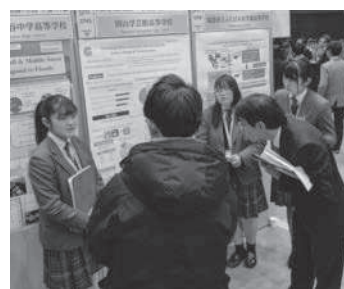
Action Plan を考える ④発表して共有する、の4フェーズで構成されています。行動するところまで具体的にイメージすることで参加者の当事者意識が育まれることを期待しています。今回も県内4団体のNPOや町内会にご協力頂き、社会に実存する社会課題をご提供頂きました。



た。リアルな社会と高校生とが繋がることで、生徒の主体性が育まれました。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

## SGH全国高校生フォーラムに参加

12月、文部科学省と筑波大学の共催で2019年度全国高校生フォーラムが開催され、2年生3名が参加しました。フォーラムでは、全国のSGH、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業、地域との協働による高等学校教育改革推進事業の代表生徒が一堂に会し、英語でのポスターセッションやディスカッションを通して、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決に向けた提案等について英語で発信しました。



生徒たちは「国際理解教育」について、県内小学校で行った国際理解教育の出前授業の体験を交えて報告しました。ポスターセッションは発表も質疑応答も英語で聴衆も近かったのですが、自分たちの課題研究をしっかり発表し、活発な質問にも対応できました。また、データを簡潔にまとめたポスターも高評価を得ました。

## 第5回カンボジア合同研修会開催!



5回目を迎えたカンボジア合同研修会。始まって5年、年に1回顔を合わせ続けた教員同士の昔話から始まりました。こうやって継続的に全国から高校が集い、合同研修会を開ける事は関係各校に心から感謝です。

この研修会の醍醐味は何と言っても、様々な学び方をしてきた高校生同士が意見を付き合わせ、新たな価値観を得ることです。

今年は昭和女子大学でカンボジア研究をされている米倉教授のファシリテートで、事業評価を基軸にカンボジアで触れた諸活動や自分たちの活動を振り返りながら、新たな視点に気づくことを中心にワークが展開されました。



新たな気づきを得た参加者は、新たな考える術を体得することができました。

## リサーチフェスタ2019で1位、2位受賞!!

12月、甲南大学リサーチフェスタ 2019 に参加してきました。出場者1000名超、ポスター発表数357組と、多くの高校生や大学生研究発表が繰り広げられました。



本校からは2年生27名、8つのゼミがポスター発表に臨みました。その結果、6部門中4部門の表彰を受けることができました。本大会で一番優れた「甲南大学学長賞」を食育・栄養ゼミが、2番目に優れた「審査員特別賞」を循環型社会形成ゼミが受賞することができました。それ以外にも「クリエイティブテーマ賞」を観光ゼミ、「アトラクションプレゼンテーション賞」を国際理解教育ゼミが受賞するなど、多くの賞を本大会で受賞することができ

ました。この大会で学んだことをさらに深め、3月に開催されるSGH甲子園に臨みたいと思います。

## 模擬国連に参加しました

12月、普通科と英語科の生徒16名が、京都で立命館宇治高校英語模擬国連に参加しました。元外務事務次官の数中三十二氏の基調講演、ブロックミーティングを



経て本会議に臨むうち、会場を走り回って英語で他国の大使と交渉するようになっていました。1日目はジェンダーを課題に挙げ、「教育」「労働」「政府」という3つの切り口で、各国が抱える課題、解決策などが話し合われました。2日目は「強制労働」「セキュリティと権利」についての議論が交わされました。普通の高校生にはなじみが薄いと思われるテーマに関しても、それぞれが各国大使になりきり、議論が尽きることはありませんでした。この経験を活かして次のステップにしっかり進んでくれることを確信しました。

## 多文化共生ゼミが地域と協働!

多文化共生ゼミの2年生が西大寺公民館で地域に住む外国人の方々と一緒に、言語交流型異文化理解ゲーム「Language Exchange Game」を実践しました。

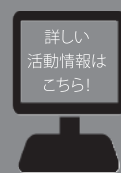


この取り組みは、高大連携事業「甲南大学SDGsチャレンジ」をきっかけに本格的にスタートしたもの。岡山市の人口の2%が外国人という昨今、行政、居住者、受け入れる日本人、様々な方へのヒアリング調査を通して、人と人のつながりをどのように産み、その上で相互理解を促進できるかを高校生なりに模索しています。地域の中の交流を通じた「異文化理解」を実現でき、外国の方々の評判も上々でした。次は規模を拡大して挑戦します。

SGH  
NEWS  
令和元年度 No.4

SGH広報誌 令和元年度 No4  
2020年1月30日発行

編集 岡山学芸館高等学校SGH運営部  
〒704-8502  
岡山市東区西大寺上1丁目19-19  
☎086-942-3864



岡山学芸館高等学校SGH活動ブログ  
<http://gakugeikansgh.jugem.jp/>

岡山学芸館高等学校SGHフェイスブック  
<https://www.facebook.com/gakugeikansgh/>





# SGH NEWS

令和元年度 No.5



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校

## 1年生海外フィールドワークの報告



2019年12月16～24日、選抜20名の1年生がフィールドワークのためカンボジアを訪問しました。1年次の学びの集大成として実施するこのフィールドワークのテーマ

は「現地を知る」こと。2年次以降で学ぶアクションプラン作りには、社会課題の構造を知ることが大切です。一週間、文献には載っていない生のカンボジアに触れ、調査し、事実を踏まえて考える。真剣に現実と向き合い、自分に向き合った生徒たちの活動を時系列にご紹介します。



### 1日目～教育を通し考えるカンボジア～

午前中は姉妹校のソムダイアウ高校を訪問しました。英語や身振り手振りで、言語と価値観を超えてコミュニケーションを取る姿が見られました。

午後はむつみ日本語学校へ。真摯に日本語の学習に向かう生徒たちの姿勢に触れ、カンボジアの生徒たちの目の輝きや、向上心の強さに衝撃を受け、改めて自分たちを問い直しました。



疑問を持ち、根拠を自分たちで調査しながら答えを出すという一連の作業が、人として成長するために大切な要素なのだ、改めて感じました。

### 2日目～様々な支援のあり方を考える～

活動2日目は現地活動家の西えりこさんの活動に帯同し、シェムリアップ郊外の集落を回りながら、現状調査と古着配りを行いました。西さんの「強い気持ちが行動を起こす原動力。その行動は自分のやりたいことであるべきだ」という言葉は生徒たちに大きく響いたようです。



午後からはゴミの最終処分場を訪問しました。来るたびに広がっていくゴミの穴は、新しい穴を掘るスペースがもうありません。州政府環境局の方々もこの現状を良く捉えている訳ではないそう

です。何もすることはできないという現状が私たちに投げかけられている課題だと感じました。その後、Kumaeのバナナペーパー工場を訪れ、ゴミの最終処分場で働く人々に別の雇用を生み出すため始めた現地活動家の山勢さんの想いに触れました。トライアンドエラーの繰り返しでここまでやってきたプロセスは、今後の生徒たちの活動の大きな励みになると思います。

フィールドワーク恒例の毎晩の振り返りミーティングでは、ディスカッションテーマを「貢献とは何か？」にしました。考えたことをシェアして、生徒それぞれが今の答えを出し続けました。



### 3日目～コラボから生まれる新たな知～

世帯収入向上のため、子どもを預けるための保育園を運営されている大房さんがいるコムルー村を訪問しました。カンボジア人の先生方が一生懸命に子どもたちのために働いている姿を見て、教育と社会との関連性を肌身で感じました。



その後、フィールドワーク初の試みとして岡山大学教育学部の学生さんたちと合流して活動を行いました。学生さんたちの素晴らしいコミュニケーション力ですぐに



打ち解けることができました。一緒に向かったのはトンレサップ湖の水上に浮かぶ小学校でした。先生方の熱い想いと一生懸命学ぶ児童の姿が印象的なこの学校にも、

課題は山積みでした。特に水上生活の大変さは想像以上の様子でした。さらに3グループに別れて、水上生活実態調査を行いました。実際に住居を訪問させて頂き、漁業の大変さ、生活の難しさ、また、水上生活の良いところなど、色々と話を伺うことができました。

振り返りミーティングにも岡山大学の学生さんと一緒に、「先入観とは何か？」について、活発な議論を繰り返しました。

### 4日目～子どもを育てることを考える～

4日目も岡山大学教育学部の学生さんたちと一緒に活動を行いました。岡山を拠点とするNPO法人ハート・オブ・ゴールドがチェイ小学校で行う体力測定に参加しました。約300名の児童の体力測定を手分けして行いました。実際のプロジェクト活動の様子、目的や方法ま



で肌身で感じられる貴重な機会となりました。

午後は、ハート・オブ・ゴールドが運営するNCCC (New Child Care Center) で交流を行いました。ここには本校に留学経験のある生徒が多数在籍しています。

交流の後はヒアリングを実施しました。興味関心に従い、自らの手で積極的に聞き取りができるようになってきました。最後に岡山大学の学生主導で振り返りミーティングを行いました。テーマは「子どもを育てるとは?」。生徒たちは深く答えの無い問いに対して、真剣に考え続けていました。根本的な問いに対して考え、今の答えを出し続けることを通して、考える楽しさを感じられたことは大きな成長でした。



### 5日目～人と人のつながりの大切さ～

リエポン村の学校建設に関わったことをきっかけに、8年間活動を続けている内田隆太さんに会いに行きました。内田さんは、村の様々な課題を様々な視点から考え、実行し続けていました。学校を作り、雇用を産み、新たな産業を生み出す。色々な活動をされている中でも一本筋の通った想いがある方でした。

謙虚に「私は方向性を指し示すことが使命」とおっしゃられていた内田さん。第三者だからこそ持てる視点と行動で、村のために尽力されていました。

内田さんの活動の原動力は、「村が好き、村人（子ども）が好き」の一点に尽きるそうです。日々の生活は様々な葛藤の連続だとおっしゃっていましたが、それを払拭させるのは人々を愛する心なのだ強く感じました。

最後に内田さんから一人ずつ感想を求められました。生徒たちはそれぞれの視点から、自分の意見を述べられるようになっていました。自分の変化を客観的に捉え、楽しみながら成長してくれた生徒たち。この活動が一步前へ進むきっかけになるよう期待しています。



SGH  
NEWS  
令和元年度 No.5

SGH広報誌 令和元年度 No5  
2020年1月30日発行

編集 岡山学芸館高等学校SGH運営部  
〒704-8502  
岡山市東区西大寺上1丁目19-19  
☎086-942-3864



詳しい  
活動情報は  
こちら!

岡山学芸館高等学校SGH活動ブログ  
<http://gakugekansgh.jugem.jp/>

岡山学芸館高等学校SGHフェイスブック  
<https://www.facebook.com/gakugekansgh/>



# SGH NEWS

令和元年度 No.6



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校

## 令和元年度研究報告会を開催しました



操山高校

2020年2月15日、百花プラザ多目的ホールにて、5回目となるSGH研究報告会を行いました。SGHの授業や校外での普及活動、カンボジアフィールドワークで学んできたことを英語で発表

しました。本校卒業生や、県立岡山城東高等学校の生徒たち、ソーシャルリーダーシップキャンプで共に学んだ岡山操山高等学校と邑久高等学校の生徒たちも発表を行うために駆けつけて下さいました。561席の観覧席は、立ち見も含めて満員御礼となりました。

来年度からはSGH同様の授業が全校実施となる予定です。地域を巻き込んだ活動を展開し、徒たちが地域とともに更に成長してくれることを期待しています。



少しずつですが、以下に本報告会の内容を掲載します。

### カンボジアフィールドワークでの気づきと学び ～貢献活動を考える～

大賀 さくらさん・施 靖暄さん・渡邊 桃さん



渡航前の一年生が持っていた貢献活動に対するイメージは、「ボランティア・高校生にはできない・自分が犠牲になってもいい」等でした。しかし、カンボジアで社会貢献活動家の方々にお会いすると、そのイメージは覆されました。旅を通して考えた貢献活動について報告しました。

カンボジア循環型社会のあり方を考察する  
—岡山県真庭市の「バイオスタウン真庭」を事例として—  
藤原 美羽さん・宮崎 香穂さん・森 杏奈さん・沖永 夏菜さん

カンボジアではゴミ問題が深刻化し、環境問題や健康被害が拡大しています。課題解決のため、カンボジアに循環型社会をつくる必要性があると考え、注目されている岡山県真庭市を考察し、カンボジア独自の循環型社会モデルを立案しました。



### カンボジアの子供たちに健康手帳を

～高校生の私達ができること～  
荒木 七海さん・河嶋 紀乃さん



NPO法人ハートオブワールドと共同でカンボジアの子供達に向けた健康手帳の作成に取り組んでいます。保健教育が不十分な現地の子供たちに、自分の身体に興味を持ってもらい家族や地域を巻き込んだ包括的・長期的な子どもの成長の記録

として活用できることを目指して取り組みました。

### 地球の未来に責任を持つための教育

岡田 奈々子さん・不田 妃芽乃さん・早田 花乃さん・辻本 晃也君・尾崎 右典君

世界では貧困など地球規模の問題が深刻化し、解決に主体的に取り組み、平和を実現できる教育プログラムの作成が急務です。SDGsを題材に国際理解教育を広める事がその一歩に繋がると考え、小学校で行った出前授業や、日本の国際理解教育の在り方について提言しました。



笑顔の妊婦を増やしたい  
～私が社会のためにできること～  
福江 梨乃さん

1年生時フィールドワークで受けた衝撃と、助産師になるという夢から、カンボジアにおける母子保健について調査しました。現地において本当に求められている活動とは何だろう。高校生の自分が、社会に対しどう貢献ができるのだろうか。課題研究を進めてきた中での気づきや考察を中心に報告しました。



岡山操山高等学校・邑久高等学校・岡山学芸館 合同発表  
ソーシャルリーダーシップとは？  
～NPOとの協働から社会と個の関係を考える～  
小森 百華さん・山下 歩華さん・矢部 真珠さん

県内5校が合同で行ったソーシャル・リーダーシップ・キャンプの報告を3校合同で行いました。社会団体から課題を提供してもらい「高校生に出来ること」を真剣に考えました。これから大切なのはリーダーとは何か？を私たちが問い直すこと。高校生が感じたリアルなリーダー像を発表しました。



外国人労働者のための多文化共生  
矢内 涼翔君・劉 丹さん・高 函綺さん

岡山市では現在多くの外国人の方が在住しており、私たちが住む西大寺地区も例外ではありません。そこで、岡山市や西大寺が彼らのためにどのような取り組みを行っているのかを調査しました。そこから岡山市の抱える多文化共生に対する問題を考え、問題を解決するための糸口を探り、その結果私たちが取り組んだ内容を報告しました。

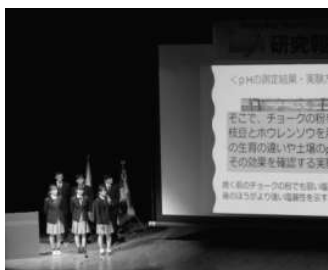


SGHの学びが大学生活にもたらすもの  
上智大学 前坂 龍太郎君

本校SGHの授業を3年間学び、大学生になった卒業生が発表しました。大学での学び方は「興味・関心」「分析力」「行動」が必要です。卒業生が現在どのような興味関心を持ち、どのような経験をして、どのような未来を描いているのか。大学生の立場から、高校時代の課題研究の重要性や必要性について発表しました。



岡山城東高等学校研究発表  
目指せ！ チョーク農業



県立岡山城東高等学校から代表1グループが発表に来て下さいました。肥料の代用として、捨てられるチョークが利用できれば、ごみの削減ができます。また、加熱し肥料になれば、製造も容易で、技術の乏しい途上国でも活用が見込めます。そこでチョークの粉を加熱した肥料としての効果等を検証した結果を発表しました。

講評 立教大学経営学部国際経営学科教授 松本 茂先生

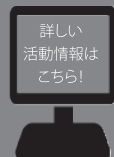
SGH最終年度の発表は非常にすばらしかったです。特に感じた事の1点目は5年間で研究になってきたこと。社会課題を自分ごととして捉え、先行研究からActionまで行う学びは研究として成立しています。2点目は高校生にできることをテーマとして設定していることです。Actionを起こすことはすばらしいです。大学レベルの研究も多数見られました。今後はこの取り組みを社会と協働しながら持続可能なものにするためにはどうすればよいかを考えてみてください。5年間の活動を拝見して思うことがあります。それは、始める事の大切さ、変えることの勇氣、続けることの大切さ、視野を広げることの大切さ、学びに向う姿勢を育てることの大切さです。これはSGHの大きな成果だと思います。これからの岡山学芸館高校にも期待しています。これからも頑張ってください。



SGH  
NEWS  
令和元年度 No.6

SGH広報誌 令和元年度 No.6  
2020年3月20日発行

編集 岡山学芸館高等学校SGH運営部  
〒704-8502  
岡山市東区西大寺上1丁目19-19  
☎086-942-3864



岡山学芸館高等学校SGH活動ブログ  
<http://gakugeikansgh.jugem.jp/>

岡山学芸館高等学校SGHフェイスブック  
<https://www.facebook.com/gakugeikansgh/>



